

高齢者の社会参加を考えるワークショップ

報 告 書

平成 29 年 1 月

札幌市保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課

目 次

第1章 開催概要	1
1 開催目的.....	1
2 事業概要.....	1
(1) ワークショップのテーマ	1
(2) 参加者選出	1
(3) 開催日時等	1
第2章 ワークショップの実施方法.....	2
1 当日のスケジュール	2
2 ワークショップにあたって.....	3
(1) 事前送付資料	3
(2) 当日の情報提供	4
3 ワークショップの概要.....	6
(1) グループの編成	6
(2) ワークショップの流れ.....	6
第3章 ワークショップの結果まとめ	9
1 「社会参加」という言葉のイメージについて	9
2 取り組んでみたい「社会参加」の活動について	10
3 社会参加の障壁となる課題について	13
4 社会参加を促すアイデアについて	15
(1) “効果的な情報発信” につながるアイデア.....	15
(2) “地域のつながり強化” につながるアイデア.....	17
(3) “意欲・関心の向上” につながるアイデア.....	18
第4章 参加者アンケート	19
1 アンケート実施概要	19
2 アンケート結果	19
第5章 資料編～配布資料	26
1 配布資料.....	26
2 アンケート票.....	29
第6章 資料編～グループごとの意見	30
1 ワークショップ②	30
2 ワークショップ③	59

第1章 開催概要

1 開催目的

超高齢・人口減少社会において、労働力人口の減少や経済規模の縮小、医療・介護等の社会保障費の増大など、様々な社会的影響が懸念されている。今後、社会の活力と安心を高めていくためには、年齢や性別に関わらず全ての人が支え合うことができる社会の構築が必要であり、その際、元気な高齢者が豊富な経験と知識を生かしながら、地域の一員として社会・経済を支える役割を担い、活躍することが求められる。

そのような背景がある中、札幌市では、高齢者の社会参加支援の在り方の検討を進めている。本ワークショップでは、幅広い世代からの広い市民意見を聴取し、今後、策定する札幌市の高齢者の社会参加に関する基本方針の検討材料とすることを目的としている。

2 事業概要

(1) ワークショップのテーマ

「誰もが社会と関わるために ～いろんな世代が活躍できるまちを目指して～」

(2) 参加者選出

札幌市のイベントや広報さっぽろ等で参加の呼びかけを行い、定員 100 名を大幅に超える 183 名の応募があった。そのうち当日の欠席者を考慮し 110 名を抽選により選出した。その後、体調不良等による欠席があり、当日参加者は 85 名であった。

■参加者数内訳

10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳以上	計
2 人	10 人	12 人	8 人	7 人	25 人	17 人	4 人	85 人

(3) 開催日時等

仕事等で平日は忙しい方が多いことを想定し、できるだけ各世代の方が参加しやすいように、日曜日の開催とした。

なお、ワークショップには主体性と責任感を持って参加してもらうため、参加者には昼食と謝礼を提供した。

日 時	平成 28 年 12 月 18 日（日）10：00～14：00
場 所	北海道立道民センター かでる 2.7（札幌市北区北 2 条西 7 丁目）

第2章 ワークショップの実施方法

1 当日のスケジュール

ワークショップは、次の流れで進行した。

10 : 00	開会、オリエンテーション
10 : 05	市からの情報提供 ・趣旨説明など
10 : 20	アイスブレイク・グループ分け
10 : 50	ワークショップ① テーマ：「社会参加」って何だろう？ ・「社会参加」のイメージを共有
11 : 15	ワークショップ② テーマ：こんな社会参加をしてみたい！ ・参加者の取り組みたい社会参加について共有 ・取り組みたい社会参加を実現していくために必要なものを考える
12 : 05	昼食・休憩 （ファシリテーターによる発表）
12 : 40	全体の意見の共有 （各グループで出た意見のまとめ）
13 : 00	ワークショップ③ テーマ：みんなで社会参加できるプロジェクトを考えよう ・グループのメンバー全員が関わることのできる社会参加のプロジェクトを考える
13 : 30	全体共有 ・各グループのファシリテーターによるプロジェクト内容の発表
13 : 50	全体のまとめ
14 : 00	閉会、アンケート記入、謝礼（QUOカード）進呈

2 ワークショップにあたって

(1) 事前送付資料

参加者が積極的かつ気持ちよく参加できるよう、「参加者の方へのお知らせ」を事前に郵送し、参加に当たっての基本的なルールなどについて周知を図った。

■「参加者の方へのお知らせ」の内容

主催 札幌市保健福祉局

高齢者の社会参加を考えるワークショップ

つながる トーク&交流会

～いろいろな世代が活躍するまちへ～

参加者の方へのお知らせ

◆日時：平成28年12月18日（日）
10：00～14：00（9：45開場）

◆場所：かでる2・7 4階 大会議室
（所在地 札幌市中央区北2条西7丁目）

会場地図 **会場は、市役所本庁舎ではありません。ご注意ください。**

会場までは公共交通機関でお越しください。
※やむを得ずお車でのご来場は、かでる2・7の地下駐車場（有料）をご利用いただくか、付近の民間有料駐車場をご利用ください。（料金は各自でお支払いください。）

当日ご持参いただくもの

- ・本資料同封の「参加決定のご案内」（受付時にご提示ください）
- ・印鑑
※印鑑は謝礼（QUOカード）受領時に押印いただきます。

＜アクセス＞

- JR「札幌駅」下車、徒歩10分
- 市営交通・地下鉄南北線・東豊線
「札幌駅」下車、徒歩9分
- 市営交通・地下鉄南北線
「大通駅」下車、徒歩11分
- 市営交通・地下鉄南北線
「西11丁目駅」下車、徒歩11分

1 つながる トーク&交流会の概要

つながる トーク&交流会の背景・趣旨

超高齢・人口減少社会において、社会の活力と安心を高めていくためには、年齢や性別に関わらず全ての人が支えあうことができる社会の構築が必要となります。その際、元気な高齢者が豊富な経験と知識を生かしながら、地域の一員として社会・経済を支える役割を担い、活躍することが求められています。

このような状況を背景として、札幌市では、高齢者の社会参加支援の在り方を検討しており、幅広い世代からの市民意見やアイデアを聞き取る場として「つながるトーク&交流会」を開催します。

みなさまに話し合っていた結果については、今後の札幌市の高齢者の社会参加支援の在り方に関する基本方針策定の参考とさせていただきます。

2 ワークショップテーマについて

テーマ：誰もが社会とかがわるために
～いろいろな世代が活躍できるまちを目指して～

(1) ワークショップ①：「社会参加」ってなんだろう？
高齢者に限らず「社会参加」とはどのようなことなのかをカードを使ってグループ内でイメージを共有していきます。

(2) ワークショップ②：こんな社会参加をしてみたい！
「自分ではこんな社会参加がしてみたい！」を切り口に社会参加を実現するにはどのようなもの、ことが必要かを話し合い整理します。

(3) ワークショップ③：みんなで社会参加できるプロジェクトを考えよう
グループのメンバーとみんなで一緒に社会参加するプロジェクトを考えます。

3 ワークショップを進めるにあたって

- ワークショップとは、...
- ・あるテーマについて、多くの人たちの意見を出し合い、何かをつくりあげる会議手法です。
 - ・できるだけ多くの参加者から、いろいろな視点での意見をもらうことを狙いとしています。

○グループの構成

話し合いは1グループ6～7人程度に分かれて行います。
（当日の欠席者等で人数が前後する場合があります。）
グループメンバーは当日くじ引きにより決定します。

○ファシリテーターの配置

グループごとに進行役として話し合いを進めるスタッフ「ファシリテーター」を配置します。
また、グループで出された意見を集約しファシリテーターが発表します。

- ・出された意見は、それぞれ付箋などに記録し、項目やテーマなどに分類しながらグループングしてまとめます。
- ・最後に各グループでの意見を全体で取りまとめ整理します。

○話し合いのルール

参加者全員が発言しやすいよう、また、気持ちよく意見交換ができるよう、以下のルールを守って意見交換を行ってください。

話し合いのルール

- ・他の人の意見は、きちんと聞きましよう。
- ・自分の意見も、どんどん発言しましよう。
- ・自分と意見が違っても他の人の出した意見を否定しないで、お互いに褒めましよう。
- ・参加した皆さんが発言できるようにお互い配慮しましよう。

4 プログラム（予定）

時刻	内容
9：45	受付開始
10：00	開会、オリエンテーション（札幌市より趣旨説明など）
10：20	くじ引きにてグループに分かれ、アイスブレイク
10：50	ワークショップ① 「社会参加」ってなんだろう？
11：15	ワークショップ② こんな社会参加をしてみたい！
12：05	昼食・休憩（ファシリテーターによる発表）
12：40	全体の意見の共有（各テーブルで出た意見のまとめ）
13：00	ワークショップ③ みんなで社会参加できるプロジェクトを考えよう
13：30	全体でプロジェクトへの共有、投票
13：50	全体のまとめ
14：00	閉会、アンケート記入、謝礼（QUOカード）進呈

※上記プログラムの内容は変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

5 その他注意事項

- (1) 謝礼（QUOカード1,000円分）について
指定するすべての時間に参加いただいた場合に進呈します。
- (2) 昼食について
昼食は軽食（サンドイッチとお茶）をご用意する予定です。お飲み物につきましては、必要に応じて、各自ご用意願います。（館内には自動販売機がございます。）
- (3) 記録写真等について
当日の様子やワークショップの結果については、札幌市のホームページ等に公開することがございます。あらかじめご了承ください。
- (4) 万が一、都合が悪くなった場合について
当日までに都合が悪くなった場合は、下記の連絡先にできるだけ早くご連絡をお願いいたします。当日体調不良などやむを得ず欠席する場合は、当日の連絡先KITABAまで電話（080-3267-2257）までご連絡ください。

参加に際して何かご不明な点などございましたら下記へお問合せください。

お問い合わせ

- 【12月16日（金）17：15まで】
- 札幌市 保健福祉局 高齢福祉課 飯田・佐藤（TEL 011-211-2976）
 - 株式会社KITABA（受託会社） 松浦・内匠（TEL 011-522-5070）
- 【12月17日、18日の緊急連絡先】
- KITABA携帯電話 080-3267-2257

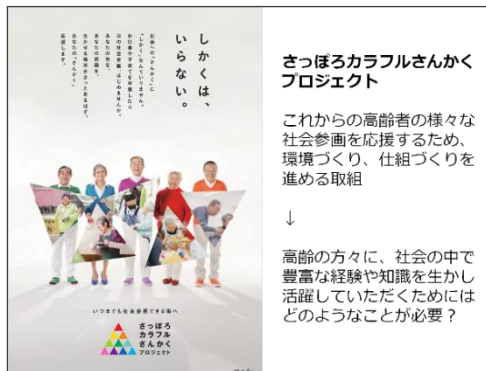
(2) 当日の情報提供

ワークショップで議論をする「高齢者の社会参加」というテーマに取り組みやすいよう、ワークショップの前に札幌市より趣旨説明等の情報提供を行った。

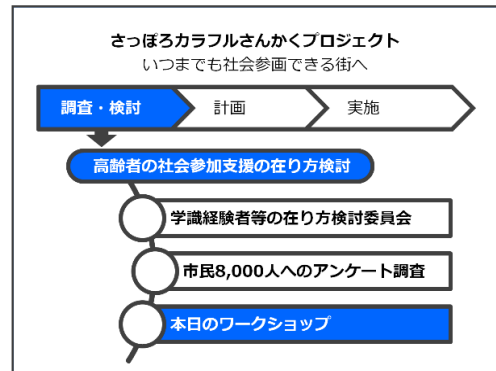
○札幌市の取組について

札幌市では、高齢者の様々な社会参画を応援するという意味を含め「さっぽろカラフルさんかくプロジェクト」として、高齢者の活躍推進に取り組むこととしている。

社会状況や高齢者のライフスタイルが変化する中、これからの時代において高齢者が社会参加しやすい環境づくりには、どのような施策を行っていくべきか検討する一環として、本ワークショップを開催した。



■カラフルさんかくプロジェクト



■本年度の3つのプログラム

○「高齢者」は何歳からか

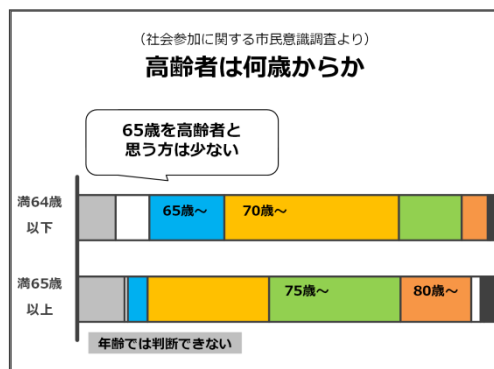
「高齢者」という言葉は当たり前のように使われているが、何歳以上を指すのか。

65歳という年齢が、比較的「高齢者」という言葉と結び付けられやすいが、平成28年8月に実施したアンケート調査の結果では「何歳ぐらいからが高齢者だと思いますか」という質問に対して、「65歳以上」という回答が少ない結果となった。

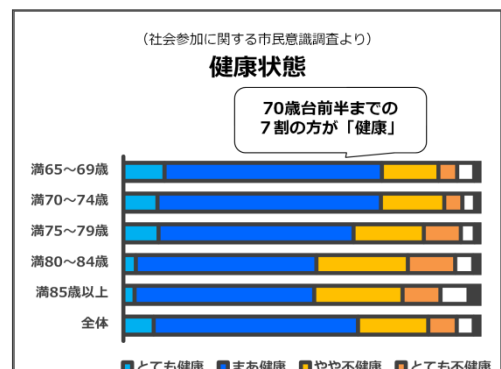
また、65歳以上の方の回答のほうが、より高い年齢を高齢者だという回答が多く、概ね自身の年齢よりも上の年齢を高齢者だと思う傾向があるということが窺われた。

回答者自身の健康状態については「とても健康」または「まあ健康」との回答が70歳代前半までで7割以上、80歳以上でも半数を超えている。

これらの数字を踏まえると、年齢が高くても元気な方は多く、「65歳を過ぎたら高齢者」というように年齢一律では捉えられないものと考えられる。



■アンケート「高齢者は何歳からか」
(64歳以下、65歳以上の比較)

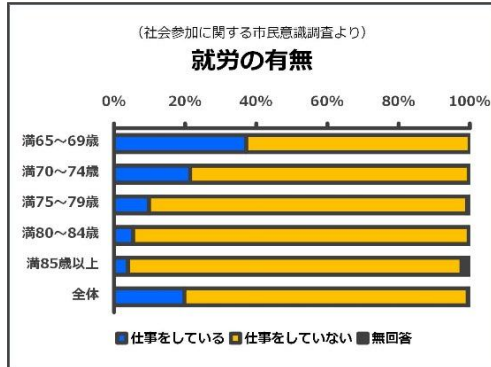


■アンケート「健康状態」

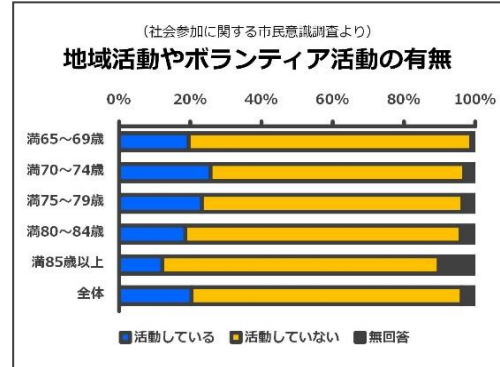
○高齢者の社会参加について

65歳以上の方で平均2割が収入のある仕事をしており、年齢が高くなるにつれて仕事をしている人の割合は低くなっている傾向が見られる。

ボランティア活動も含めた地域活動の参加については、65歳以上の方の平均が2割程度となっているが、85歳以上の方でも12.2%の方が参加していることがわかった。



■ アンケート「就労の有無」

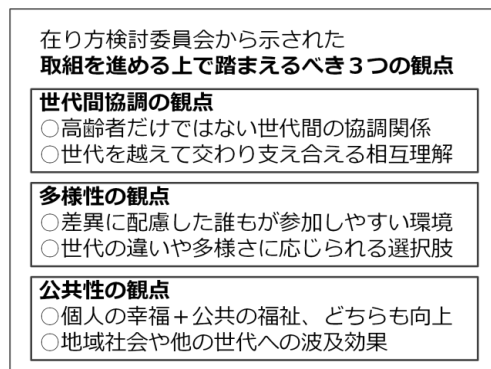


■ アンケート「ボランティア活動の有無」

○在り方検討委員会について

平成28年度に札幌市が設置した「札幌市高齢者の社会参加支援の在り方検討委員会」では有識者等による全7回の会議を開催し、今後の取組の方向性について検討を行った。

検討委員会からは、取組を進める上で踏まえるべき3つの観点が示された。



■ 取り組みを進め上で
踏まえるべき3つの観点

・世代間協調の観点

高齢者の社会参加といえども、高齢者だけではなく若い世代等多世代との協調的な関係を築いていくこと

・多様性の観点

高齢者の中でも様々な人がおり、それぞれ条件やニーズが違ってくるため、幅広い選択肢が必要になること

・公共性の観点

社会参加という意味合いは広いが、本人の生きがいや楽しみになることに加え、誰かの役に立つようなこと、地域のためになるようなことなどの効果も大事になること

○ワークショップについて

本ワークショップは「高齢者の社会参加」というテーマではあるが、「いろんな世代が活躍するまちへ」という視点で話し合いができるよう、「高齢者の社会参加」を「高齢者も含めた多世代で共有できる社会参加」、「若いうちから年齢を重ねながら続けられる社会参加」と捉え、生涯にわたって世代を超えて誰もが活躍できる社会づくりについて考えたい。

3 ワークショップの概要

本ワークショップでは高齢者の社会参加を促進するアイデアを引き出すため、3つのテーマを設定した。

(1) グループの編成

ワークショップを始める前に、楽しく話し合いを行うためアイスブレイクを行い、参加者をそれぞれ15グループ（1グループ5～6名程度）に分けた。

また、意見交換を円滑に進めるため、各グループにファシリテーターを1名ずつ配置し、参加者の意見を引き出し、まとめる役を担った。

(2) ワークショップの流れ

1) 進め方の説明

総合ファシリテーターから、ワークショップの進め方について説明を行った。

2) ワークショップ①『社会参加』って何だろう？』（25分）

ワークショップ①では、「社会参加」とはどのようなものか、社会参加のイメージをグループ内で共有するため、社会参加の活動例を書いた『社会参加カード』を配り、目的、つながり、関わり方など、いくつかの視点から社会参加について考えた。

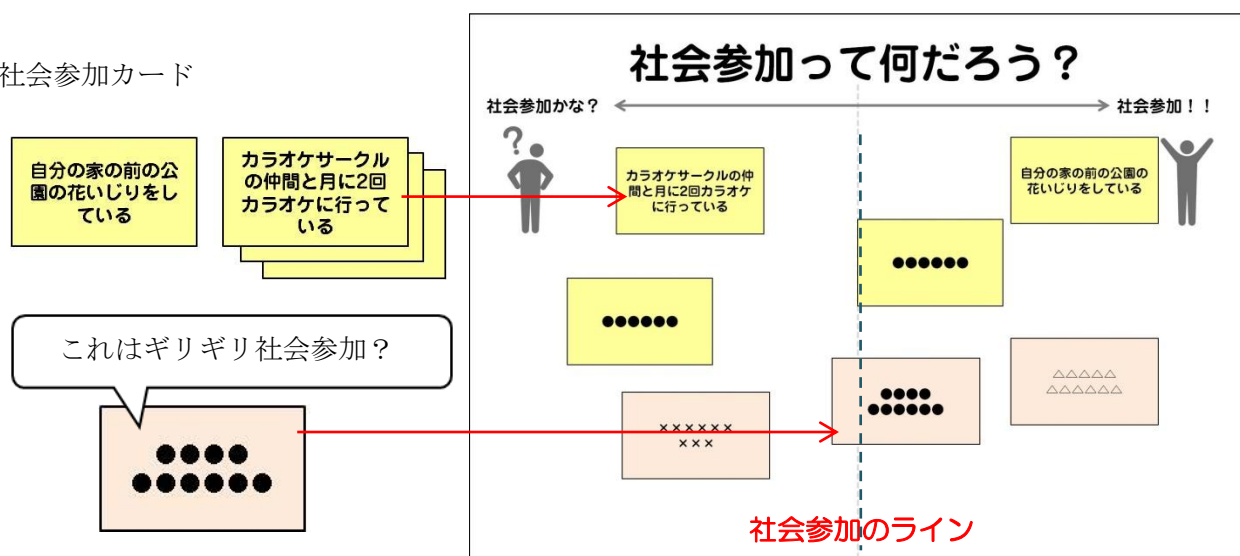
また、グループ内で社会参加のイメージが共有された後、『社会参加カード』に書かれた活動例が社会参加と言えるかどうか振り分けし、イメージを共有した。

その後、総合ファシリテーターより、いくつかのグループの議論の様子の紹介があり、以降のワークショップ（ワークショップ②、③）に向けた社会参加のキーワードとして、『誰かのためになること』『誰かと接点をもつこと』の2つの視点を挙げ、全体共有を行った。

■ワークショップ①のイメージ

ワークシート①

社会参加カード



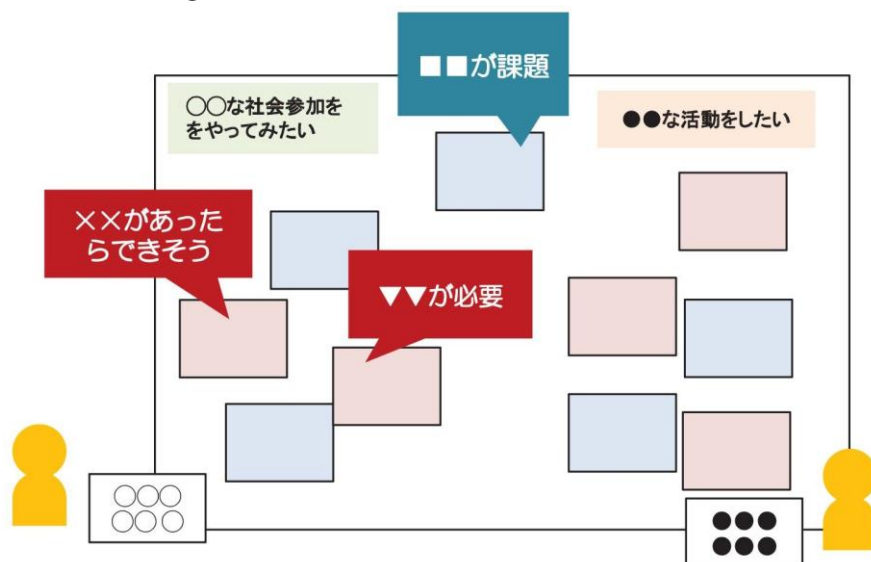
3) ワークショップ②『こんな社会参加をしてみたい!』(50分)

ワークショップ②では、『こんな社会参加をしてみたい!』をテーマに参加者自身が「取り組みたい社会参加」についてグループ内で共有し、その中から2つの社会参加を選びその社会参加が実現するためにはどのような「もの」、「こと」、「支援」、「仕組」が必要かを話合った。

その後、総合ファシリテーターの進行により、ワークショップ②で作成したワークシート②を用いて各グループの議論の様子を各グループのファシリテーターが発表を行い、全体共有を行った。

■ワークショップ②の議論のまとめのイメージ

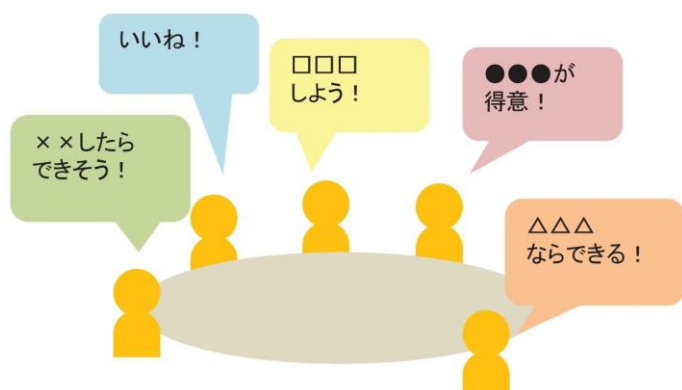
ワークシート②



4) ワークショップ③『みんなで社会参加できるプロジェクトを考えよう』(35分)

ワークショップ③では、グループみんなで関わることでできる社会参加のプロジェクトを考え、グループのメンバーがどのような形でそのプロジェクトに関わることができるか、また、ワークショップ②で出た意見を参考に実現のために必要な「もの」や「こと」等についても考え、アイデアをまとめた。

■ワークショップ③の議論のまとめのイメージ



ワークシート③

(タイトル) ●●●●●●で社会参加	
概要	・・・で・・・を・・・する。
みんなでこんなことできる	□□□する △△△できる!
実現に向けて	

5) グループごとの発表

各グループのファシリテーターが、各グループで考えたみんなで社会参加するプロジェクトについて発表を行った。

6) まとめ

総合ファシリテーターが、全グループの発表内容の意見の傾向をまとめ、全体共有を行った。また参加者数名からプロジェクトの発表内容やワークショップに対する感想を聞いた。

第3章 ワークショップの結果まとめ

1 「社会参加」という言葉のイメージについて

社会参加とはそもそも何なのか明確な定義がないため、参加者それぞれが想像する社会参加についてイメージの共有を行った。

目的や内容、参加人数規模などの異なるいくつかの活動や行為の事例を示し、それが社会参加と言えるかどうか分類することでグループ内における社会参加のイメージを共有した。

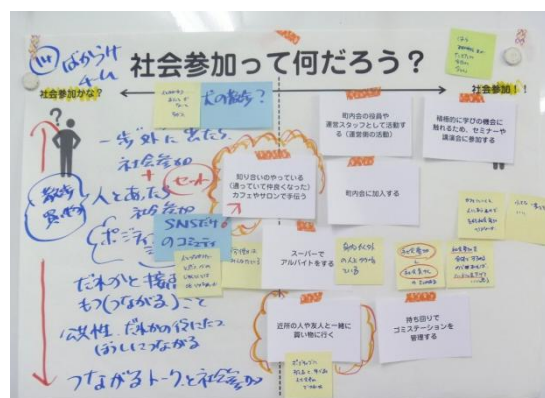
行為自体は社会参加とは言い難いものでも、誰かのためになるという目的が加われば社会参加と言えるものになるなど、様々な意見交換が行われた。

概ねどのグループも共通していたのが、『外部の人との接点がある』『自分だけのためではなく誰かのためになる』という2つの要素であった。



公園で子どもの見守りや 落ち葉拾いを毎日 ひとりで行う	町内会に加入する
子ども食堂や コミュニティカフェを 企画・運営する	町内会の多世代交流イベン トに参加する

■社会参加カード



■共有された社会参加のイメージ

多く出された社会参加ワード

- ・ 家族以外の人と関わるか否か
- ・ 個人の利益ではない
- ・ 家の外に出て誰かと交流する
- ・ ボランティア活動
- ・ 経済活動



○誰かのためになること

○誰かと接点をもつこと

いろいろな視点の社会参加ワード

- ・ 他人に迷惑をかけない生き方
- ・ 生まれた時から社会参加
- ・ 生きがいを見つける（学ぶ）
- ・ 外に一步でも出ると社会参加

2 取り組んでみたい「社会参加」の活動について

グループ内でイメージを共有した「社会参加」から、自身が取り組みたい「社会参加」の具体的活動について意見交換をした。

各参加者が取り組みたいものとして挙げた活動を大きく「誰かのためにできる活動」「多世代との交流活動」「自分らしくできる活動」の3つに分類し、整理した。

① 誰かのためにできる活動

多く見られた意見

- 自分の経験や特技、日常的に行っていることを誰かのために生かしたい！
- 誰かのために取り組むことで役割、生きがい、活力を見出すことができる。

主な意見

- ・子育ての経験があるため、子育て中のママに自分の子育ての経験を話してあげたい。
- ・アートや歌声を通じた特技を活かした多世代交流カフェをつくりたい。特に子育てママ向けの「子育てママの“り楽す”の場づくり」に役立てたい。
- ・高齢者が趣味などのために集う場所を、誰でも集える地域交流カフェ（子ども大歓迎のカフェ）とすることで、高齢者の居場所が地域の見守りの場にもなることを期待できないか。
- ・例えば、ゴミ拾いを楽しくやるにはどうしたらよいか。楽しくできる活動が、結果として社会貢献になり、活動を情報発信することで他の地域に広がるとおもしろい。
- ・日頃から個人や家庭で取り組んでいる防災は、避難訓練や勉強会（ワークショップ）、呼びかけなど町内会を通じて地域に広げることで、地域の防災力を高める効果が得られる。
- ・いろいろな特技の人が関わり合うことで、新しいアイデアが生まれるのではないか。
- ・社会参加をする「自分」だけではなく社会的な効果が地域全体に波及していくような取組が社会参加を促すために必要。
- ・特技を生かして人の役に立つことで、自分自身が満足できるだけではなく、win-winの関係になる。それによって相手にも良い影響が与えられると良い。
- ・引退したプロが経験を生かして、専門分野（デザインなど）のアドバイスをして、他人に施すことができないか。



② 多世代との交流活動

多く見られた意見

○子どもから高齢者までが交流する多世代の交流により、高齢者の生きがいや役割を創出することができる。

主な意見
・若い世代として、高齢者の知識や経験を学びたい、学校行事やイベントにあらゆる年齢の地域の人にもっと関わってもらいたい。
・世代によってできることや、困っていることなどは異なる。町内会を軸として交流し、子どもの見守りや子育て支援、高齢者支援など、地域の中で支え合うことができないか。
・地域で多世代が参加するワークショップを開催すると、世代ごとに見える地域の課題を他の世代と共有し、一緒に考えることができ、新たな活動が生まれると思う。
・地域のことや昔の遊びなど、高齢者の様々な経験を若い世代に伝えるとともに、若い世代からも音楽や体操、スマホなどの新しいことを伝え、互いに教える教わることが交流には必要ではないか。
・様々な世代が暮らす地域の中で自分の経験や知識を生かすことができ、多世代交流を通じて日頃からの顔の見える関係づくりを行うことで、ちょっとしたお願いごとができたり、災害時の安否確認や見守りなど、多世代で支え合うことで地域を良くしていきたい。
・多世代の話し合いの場を持ち、一緒に考えることができれば世代間の理解を深めることや、課題の解決、更には新たな活動が生まれるのではないか。
・多世代が集う場では世代ごとに、高齢者は戦争体験、恋文、昔遊び、若い世代はスマホの使い方や流行している歌や踊りなど特技やその時代のできごとなど、お互いの知っていることを話し合い教え合うことで、さらに世代間の理解を深めることや、さまざまな人とつながるきっかけができる。
・さまざまな世代が参加したくなるような楽しさと社会に貢献する取組を組み合わせることにより、さまざまな世代に社会参加の楽しさや参加しやすさが広がり、さらに社会参加が世代を問わず促進されるのではないか。
・子どものうちから地域活動などに参加することによって、社会参加が身近なものと感じられるようになり、みんなで社会参加する意識を育てることにつながるのではないか。



③自分らしくできる活動

多く見られた意見

- できることを無理なく、楽しみながら、自分らしく取り組む。
- そうすることで社会参加のハードルが下がり、いつまでも社会と関わりながら、様々なことに取り組むことができる。
- また、参加の気軽さがあると、なお参加の輪が広げられる。

主な意見
・若い頃に比べて体力的に自信がないなど、さまざまな年齢、健康状態、状況の人が関わることの出来る社会参加の仕方というものがある。
・一人ひとりが、その経験に基づきできることを担えば、一つのプロジェクトが実現できる。
・目的を明確にしたワークショップのような話し合いで活動の取組内容を考えると、自分の経験や知識から何ができるか、役割を発見することができる。
・地域の社会参加活動、スポーツや健康づくりの活動、生涯学習の活動、知識や経験の伝承など、ファッションショーのように様々な活動スタイルを楽しく広く紹介すると、多様な中から自分のスタイルが見つかり社会参加への関心が高まると思う。
・少しの空いた時間に参加することや、運営のお手伝い程度ならば参加したいなど、参加しやすい環境や、取組や活動への関わり方に多様性があることで、社会参加のハードルがあがりさまざまな人が参加しやすくなるのではないかな。
・社会参加する人自身がその活動を楽しむことができないと社会参加は進まないのではないかな、また、楽しんで取り組む姿を周囲に見せることで、周りの人を巻き込んでいくことができるのではないかな。
・楽しく活動することで周りの関心を高め、参加を増やしていくこと、新たなつながりをつくること、活動の継続やハードルを下げることにもつながるなど、楽しむことでさまざまな良い効果が出る。
・地域活動への関心を高めるためにさまざまな参加のスタイル（関わり方）や、参加している人の感想などに触れる機会を設けることで社会参加への敷居を下げるることができるのではないかな。
・高齢者個人が感じる価値観や関わり方などを配慮・多様化し、幅広い選択肢を用意することや社会参加への間口を広げることが大事。



3 社会参加の障壁となる課題について

実際に社会参加の活動に取り組む場合に障壁となる課題について、意見交換をした。社会参加が思うように進まない理由から以下の3つの課題が挙げられた。

課題①：効果的な情報発信

○社会参加が進まない理由

- ・ボランティア活動に参加したいが、どこで登録ができるかわからない。
- ・それぞれの団体が情報発信をしているため、情報がまとまっていない。
- ・(活動に) 興味がない人にどのようにPRして良いかわからない。

【わからない】

ボランティア活動や地域活動などを行いたい窓口がわからない、取組自体行われていることを知らないなど、参加希望者や地域の人に情報が届いていないことにより、社会参加のタイミングを逸してしまっている。

様々なボランティア活動の場や機会を知ることができれば参加したいという意見が多く、参加申込の窓口をわかりやすくすること、いつ、どこで、どのようなことが行われているかをしっかり提示することなどが求められた。

【探せない】

ボランティア活動や地域活動を行っている各機関がそれぞれ情報発信を行っているため情報が探しにくいという問題も挙げられた。情報を集約し検索できるホームページやリストがあると良いなど、情報を集約・整理することを求める声が多かった。

【伝えられない】

活動を運営する側の課題としては、情報発信の方法がわからないというものがあった。新たな参加者を獲得するには、世代にあった効果的な情報発信が求められた。



課題②：地域のつながり強化

○社会参加が進まない理由

- ・今の社会は誰彼構わず人を警戒する風潮があり、特に男性は子どもに触れてはいけないところがあり、なかなか声をかけられない社会になっている。
- ・近年は詐欺なども多く、地域内の相互の信頼関係がないと声がかけにくく活動に引き込めない。

【地域のつながりがない・信頼関係がない】

現在の社会は同じ地域に住んでいても話しかけることができない人も多く、特に子どもに声をかけると不信に思われるなど、世代間のつながりの不足が社会参加の妨げになっているとの意見が多かった。また、高齢者を狙った詐欺の横行や不審者の出現などにより、地域の中でも信頼を獲得することも難しいとされた。気軽な挨拶運動から始めるなど、その地域に住んでいる住民との接点をつくることからの積み重ねが必要との声があがった。

課題③：意欲・関心の向上

○社会参加が進まない理由

- ・近所付き合いが嫌いな人が多い。監視されている感じから近所との距離を置きたい。
- ・社会参加（ボランティアを含めて）に全く興味のない人を巻き込むことができない。
- ・今まで地域活動に来たことがない人が“気楽”に参加できるPRができていない。

【地域への無関心】

地域の人との関わり方や地域のつながりの不足による課題があるとされた。日常のあいさつや気軽な会話などの接点を作ることが課題②と同様に求められた。

【発展性がない】

興味・関心の違いや、その人々のニーズの違いを相互に理解する場や機会を設けることが重要とされた。地域活動にはいつも同じ人しか来ないなど、関心が低い人を取り込む方法についても悩まされているとの意見が見られた。また、活動に一度参加したらずっと参加しなくてはいけないということはなく、気軽に参加してほしいということをしっかりPRすることで新たな参加者層を取り込んでいくことが重要とされた。

課題④：その他

上記の①～③のほか、活動資金がない、活動場所が身近にない、時間がない・時間帯が合わない、体力面の心配があるなどの課題が挙げられた。

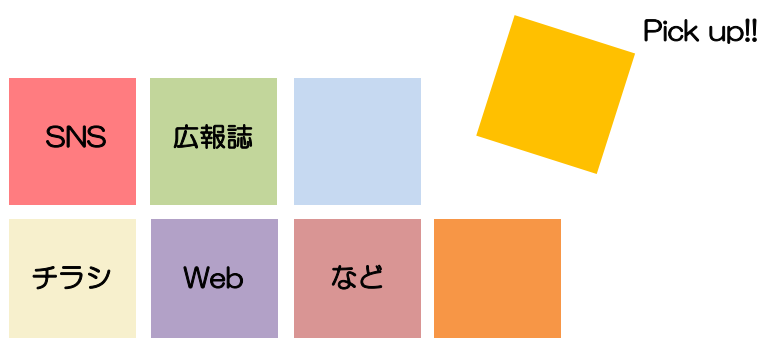
4 社会参加を促すアイデアについて

社会参加の障壁となる課題に対応する社会参加を促すアイデアを以下にまとめた。

(1) “効果的な情報発信”につながるアイデア

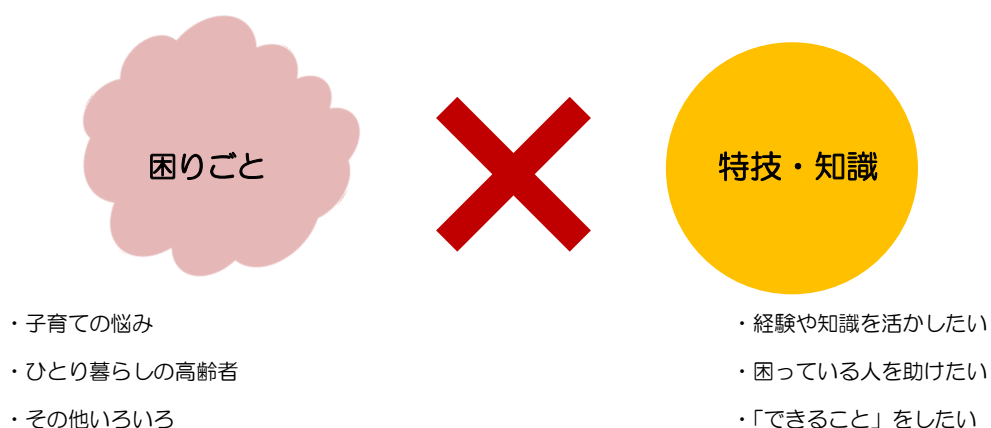
① ツールを使い分けた効率的な情報発信

- ・ SNS、広報誌、回覧板など、伝えたい速さや、どの世代に届けたいかを意識して情報発信を行う。



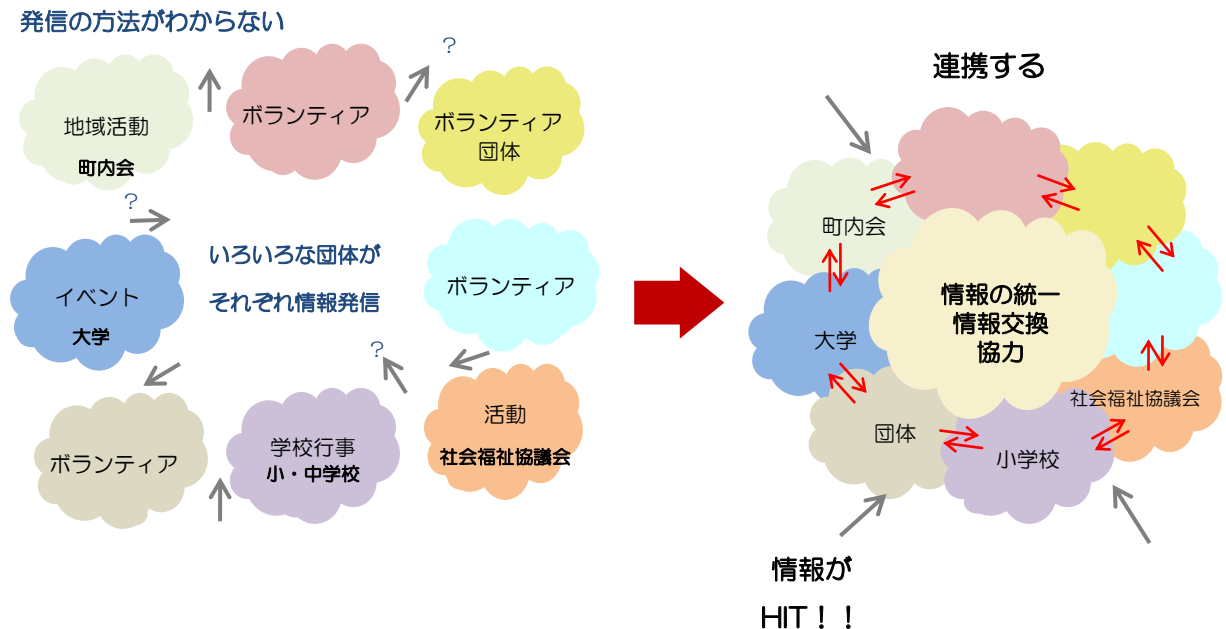
② 「地域のこまりごと」と「地域の特技」をつなげるマッチングの仕組み

- ・ 世代を問わず存在する地域の困りごとと、それを支える高齢者の特技や知識、経験をマッチングする仕組み（機関）により、地域でみんなを支える動きをつくる。



③ 関連団体との情報連携

- ・各団体がそれぞれ発信している現状では、情報を探している人が適切な情報にたどり着くことが難しいため、関連団体が連携し、情報を一元化することが必要。



④ その他のアイデア

おそろいのユニフォームで PR

- ・地域活動を行う際はおそろいのユニフォームを着るという広報活動。
- ・地域活動を行っている人と分かれば不審に思われない。
- ・面白そうな活動をしていれば、興味を持ってもらえる。

いろいろな年代に向けに地域情報を発信

- ・それぞれの年代同士の情報発信により、情報がより効果的にターゲットに届く。

【例えば・・・】

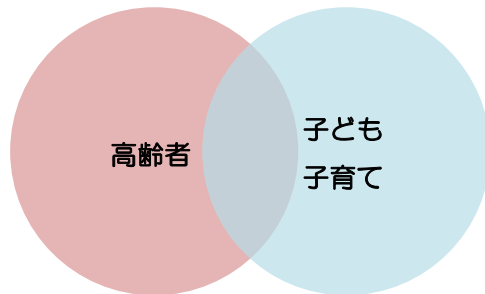
○学生向けに地域情報を発信する場合は学生に協力してもらう。

⇒SNS を利用するなど伝わりやすくその年代うけする言葉での発信できる。

(2) “地域のつながり強化”につながるアイデア

① 多世代交流で意識を育てる

- ・高齢者サロンと子育てサロンを一緒に開催するなど、新たな機会を設け、多世代交流により地域のつながりを高める。

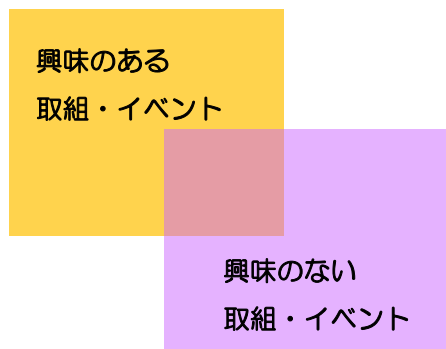


多世代で集まるメリット

- ・一同に会することで顔見知りの関係をつくる
- ・高齢者は子どもに接すると元気をもらえる
- ・若い世代は高齢者より経験や知識など教えてもらえる
- ・一緒に集うことで、場所の問題を解消する

② 異なるテーマとの共催で地域の活動と活動をつなげる

- ・例えば、歌や踊りには興味があるけど、防災には興味がない・・・といった、それぞれ異なるテーマを掛け合わせた活動を開催することによって、活動と活動をつなげ、地域活動のつながりを高める。



③ その他のアイデア

参加者に合わせた時間で行う

- ・みんなが集まれる時間帯、特に若い世代に参加してもらうために仕事の終わった遅い時間からの会議の開催を行い集まってもらう。

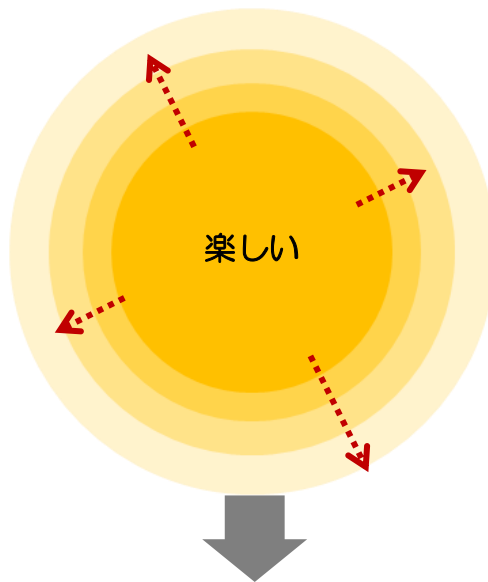
地域でもテーマをつくって話し合う

- ・話し合いは規模の大きいワークショップだけではなく、区や町内会単位の小さな単位で開催できると地域の中でのつながりづくりにもつながり、より身近な課題への対処が出来る。
- ・高齢者だけで話し合うのではなく、いろいろな世代の意見を交換することで、新たな課題や新たな解決方法が見つかる。
- ・テーマや目的をはっきりとさせた話し合いは、今まで参加してこなかった人にも興味を持ってもらうきっかけとなりうる。

(3) “意欲・関心の向上”につながるアイデア

① 楽しい“わ”をつくる

- ・気軽に楽しいことはみんなが参加したいこと。楽しいからはじまる“わ”を広げること社会参加の意欲を高める。



楽しみながら活動すると…

- 楽しさが広がり、関心のない人も参加したくなる
- 楽しさを共有できると、つながりができる
- 課題を考えることも、楽しく考えれば解決する方向へ向かう

楽しいの広げ方

- 楽しい情報発信をする
 - ・SNSなどでのリアルタイムでの発信
 - ・参加した人に体験したことを話してもらう
 - ・ミニコミ誌などで発信
- 参加した人に友だちを連れてきてもらう。

楽しく課題を考えて解決していく

② 気軽な参加で意欲や関心を高める

- ・はじめから大きな活動に取り組むのではなく、気軽に取り組める活動からはじめ、社会参加の意欲を高める。

気軽さや関心を高めるさまざまなアイデア

○ちょっとした気楽な気持ちで参加してもらう

- ・最初から最後までやめられないなどの制約を設けず、気軽な気持ちで参加できるようなプログラムを組む。

○いろんなかたちで参加できるようにする

- ・プロジェクトへの関わり方に多様性を持たせ、それを周知することで社会参加の促進につなげていくことができる。

○興味・関心のある集りに参加する

- ・参加の入口として、興味・関心のあることや身近な課題解決などを目的とした話し合いの場に気軽に参加することから役割を見つけていくことができる。

○簡単なことから日常のお手伝いをしてあげる

- ・簡単な買い物支援などの手伝いをするにより、少しずつ関心を向けてもらう。

○子どもの頃から社会参加に触れる

- ・学校と連携し子どものうちから地域活動に参加してもらうことで意欲を育てる。

第4章 参加者アンケート

1 アンケート実施概要

「高齢者の社会参加を考えるワークショップ つながるトーク&交流会」の参加者を対象として、ワークショップに参加するきっかけや理由、参加後の感想などについてアンケート調査を実施した。

■調査実施概要

実施時期：平成28年12月18日（日）のワークショップ終了後

対 象：「つながるトーク&交流会」参加者

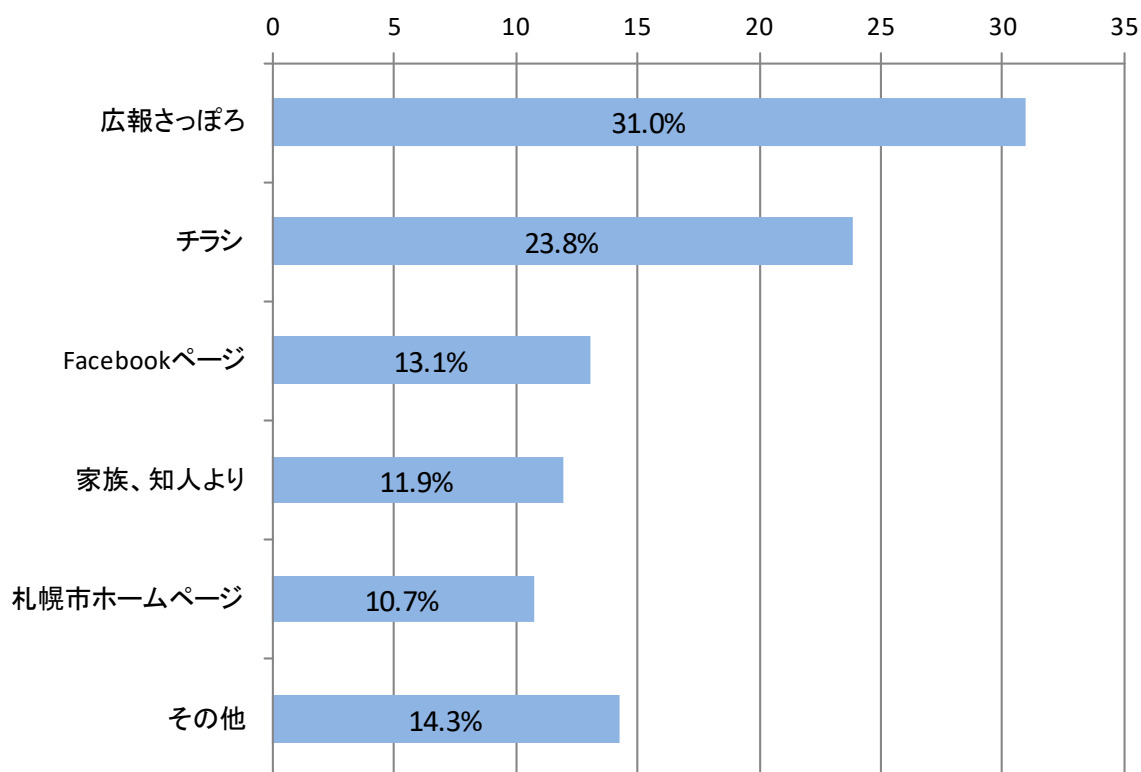
回 収 数：84名

2 アンケート結果

①「つながるトーク&交流会」に参加するきっかけについて

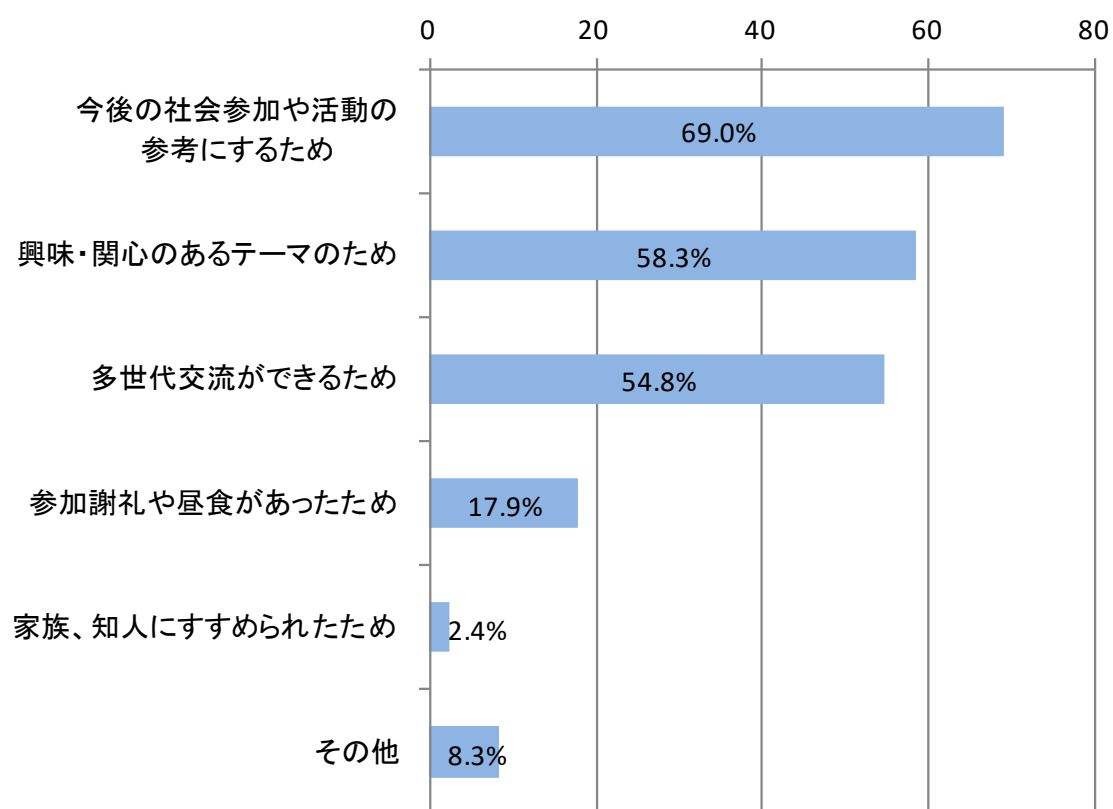
この会の開催について何で知りましたか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。（複数回答）

・きっかけとしては、「広報さっぽろ（31.0%）」が最も多く、次いで「チラシ（23.8%）」と紙媒体で知った方が多かった。



この会に参加したいと思った理由について、あてはまるもの全てに「○」をつけてください。（複数回答）

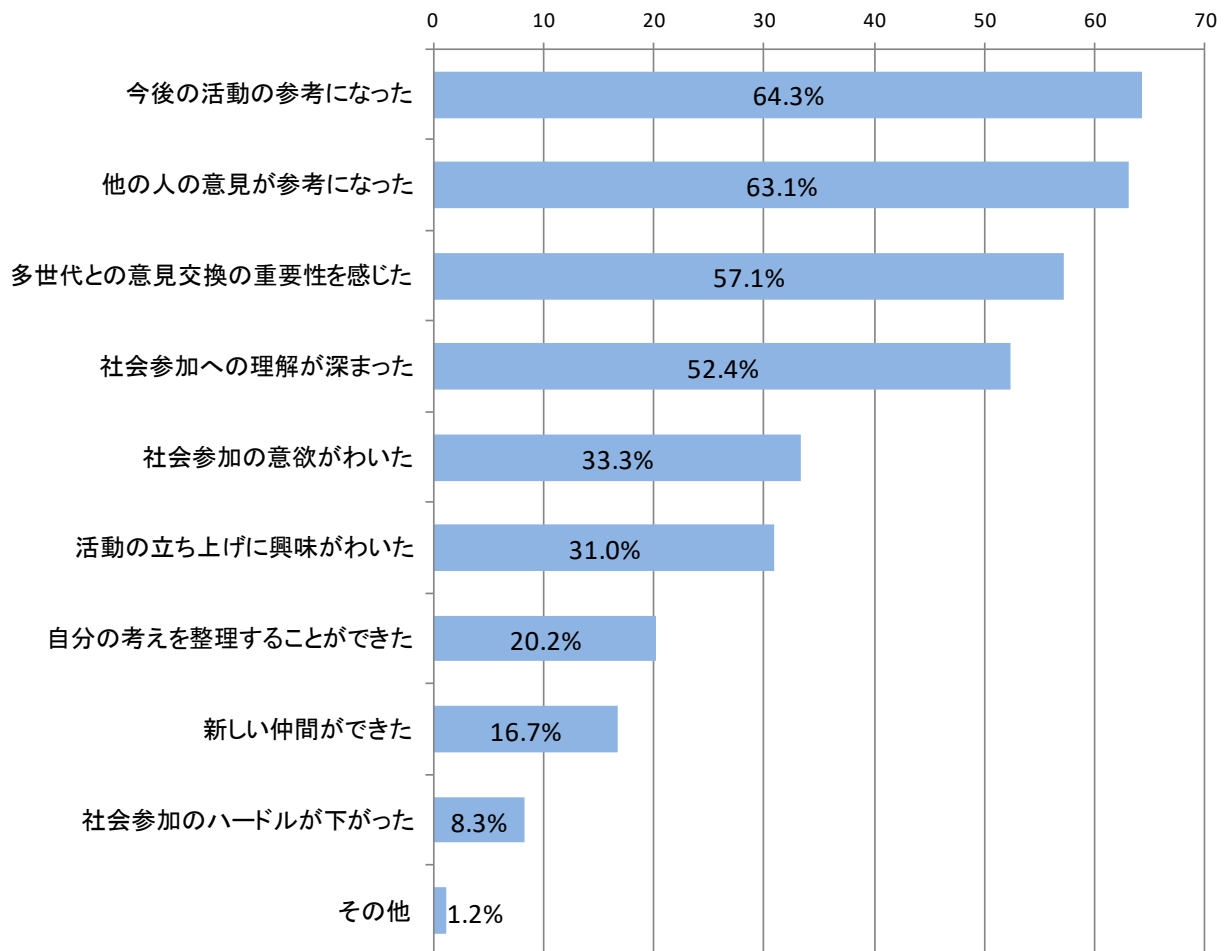
- ・参加する理由では、「今後の社会参加や活動の参考にするため（69.0%）」が最も多く、次いで「興味・関心のあるテーマのため（58.3%）」、「多世代交流ができるため（54.8%）」となった。



②「つながるトーク&交流会」に参加して

この会に参加して得られたことについて、あてはまるもの全てに「○」をつけてください。（複数回答）

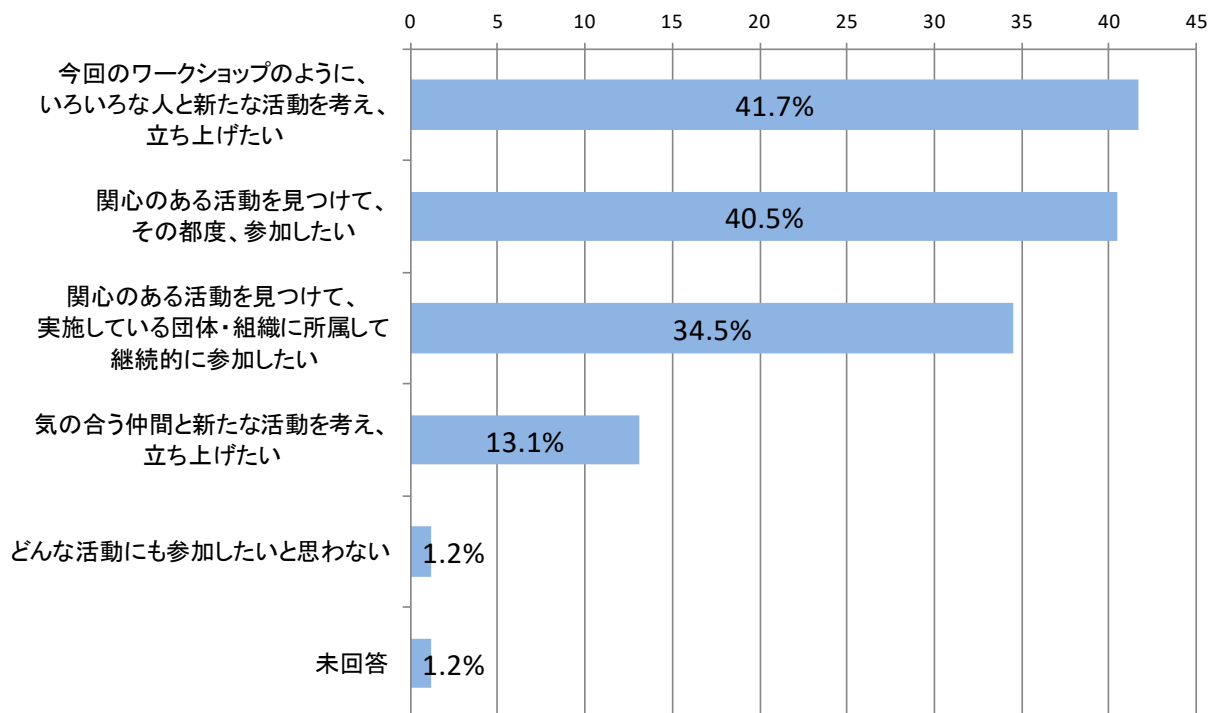
- ・「今後の活動の参考になった（64.3%）」、「他の人の意見が参考になった（63.1%）」、「多世代との意見交換の重要性を感じた（57.1%）」、「社会参加への理解が深まった（52.4%）」の4つの回答が多く得られた。



③今後の社会参加について

もし、社会参加につながる“プロジェクト”（活動）に実際に参加するとしたら、どのように関わりたいと思いますか。あてはまるも全てに「○」をつけてください。（複数回答）

- ・「今回のワークショップのように、いろいろな人と新たな活動を考え、立ち上げたい（41.7%）」が最も多く、次いで「関心のある活動を見つけて、その都度、参加したい（40.5%）」、「関心のある活動を見つけて、実施している団体・組織に所属して継続的に参加したい（34.5%）」となった。



④その他意見、感想

- ・多くの参加者から今後も今回のワークショップのような「テーマ」があり「多世代と話し合う機会」を継続的に行うことを望んでいる声が挙がっている。
- ・今後、高齢者の社会参加を促進するためには今回のようなワークショップをもう少し小さい単位で開催すること、より身近な地域で開催すること、ボランティアのリスト化などアイデアについてもさらに言及されていた。
- ・また、ワークショップに参加したことにより、今後の社会参加への意欲を感じている参加者も多く見受けられた。

自由記載欄への回答	
要望意見	世代間交流のワークショップの場が今回のような大人数でなくてもさらにあると良いなあとと思います。時間がもう少し長い方が話もより深まるので 30 分でも長い方が良かったかと感じました。
	この取組みが札幌市から区ごとそして町内会単位になれば良いと思いました。
	人員を少なく、約 50 人位で 1 グループを 4 人位がいいのでは。
	今後もこのようなワークショップを継続して戴きたい。ありがとうございました。
	みんなで参加できるプロジェクト発表後 30 分程時間を使って更なる討議があっても良かったと思います。
	今回のようなワークショップや話し合う機会を 1 度ではなくまた開いてほしいです!!
	・ 今後、継続的に実施して下さい。
	参加して勉強になりました。別にボランティアリスト（内容のみ）を作ってほしい。立ち上げだより、参加出来るリストもあった方が良いと思います。意外とリストが入って来ないので。
	こういった交流の場を今後多くしていただきたい。
	再度、開催されることを希望します。
感想	このような機会を区単位でも開催して欲しい。
	札幌市の職員さん、特に地域で具体的に関わっているような方も参加して下さいと札幌市が他人事のようでなくてよかったのに少し残念な所でした。
	このような取り組みを継続して行ってほしい。
	多世代の方々のアイデアが今後の活動の参考になりました。ありがとうございました。
	非常に今後の参考になりました！
	もっとユニークな意見がでると思ってましたが、実務的な意見があり早目に出来る事が多いと思いました。初めての参加でしたが自分自身非常に参考になりました。
	地域のつながりの仕方を勉強出来て参考になりました。
	楽しかったです。会議の進め方などの参考になりました。
	発表されたプロジェクトからどのようなことが求められているのかを知ることができ、今後の活動の参考となりました。また色々と意見交換できて良かったと思います。
	今日は色々参考になりました。今後もぜひ出席してみたいと思った。

自由記載欄への回答	
感想	はじめてこの様な会に参加しました。ボランティアなどに参加したいと思っていましたが、よくわからず時間だけが過ぎていました。他の方の意見など参考に自分でできる活動を見つけたいと思います。
	自分と年齢の離れた人の意見を聞くことが普段なかったので良い経験ができました。ありがとうございました。
	知らない方と出会えてとても勉強になりました。
	高齢者社会といわれるが、その課題は何なのかのヒントになった（高齢化社会は現状であって課題ではない）高齢者の方々の社会参画は予想よりはるかに多く、実は世代間の社会参画のあり方が異なり交流が希薄になっているという事実がわかり勉強になった。
	時間が足りないくらいでした！初めて会う多世代の方とこうやってワークショップをやるのはとても楽しかったです！みんなキラキラしてたなーと感じました！
	コーディネーターの必要性を強く感じました。多くの方々が多世代交流を考えていることがわかりました。実現できる事を期待しています。
	どのような会になるかなーとドキドキわくわくしながら参加しましたが楽しく過ごせました。あまりふれあう機会のない方とふれあえたのが面白かったですが、高齢者と若い方の隔絶が深刻だなと感じました。
	若い世代もシニア世代もみなさん”しっかりとした”意見をお持ちですばらしいアイデアが出ていたのでとても心強く感じました。
	知らない方と出会えてとても勉強になりました。
	・ワークショップに参加して大変役に立ちました。 ・意見の取りまとめ、ワークショップは”他人の意見を否定しない!!”ここが良かった。
	初めての”ワークショップ”すばらしい企画だと思いました!!少人数での話し合いなので、気軽に意見が言えました。又、参加したいです。
	今回の様なワークショップにまた、参加してみたい。
	またワークショップなど興味あるイベントあれば参加したいと感じました。
	こういったワークショップにまた参加したいと思いました。
	思った以上に規模が大きくて驚きでした。熱意のある方が多いグループで刺激的でした。
	今回参加させていただいて、同じグループの方といろんな話ができて楽しかったです。
	このつながりを大切にして又皆様とお会いしたいと思います。(会をつくるのも良いですね NPO みたいに)
	本日は本当に楽しかったです。まさに本日の会が社会参加への重要なひとつです。有難うございます。
	とても楽しかった。またこのような機会があれば参加したいです。
	様々な意見交換できて良かったと思います。
	様々な年代の方の話が聞けて良かったです。

自由記載欄への回答	
感想	大変楽しい時間と勉強になりました。
	とても楽しい時間を過ごし、活動するに検討する事ができました。
	社会参加への意識を持った方が思っていたよりも多かった。
	現在町内会の役員をしていますが、今後の活動に若者を引き込む活動的な地域活動をしていきたい。
	自分の学習になり、この事を生かして行きたい。
	色んなグループの意見が聴けて、自分の視野も広がった様に思います。みんな関心のある方ばかりで張り合いにもなりました。
	楽しく、有意義な時間を持てたし、又、この機会があったら参加したいと思いました。
	有意義な1日を過ごす事が出来とても楽しかったです。
	どの意見もすばらしいものでしたが、③番の農業がおもしろかったです。楽しい企画をありがとうございました。
	とても参考になりました。札幌市の今後の取り組みに期待しています。
	テーマを絞り、実活動されている方の意見など前向きな社会参加（画）できれば良いと思います。
	なかなか意見がまとまらない（突っ走る人もいるので）それをファシリテータが一生懸命進めようと努力されていた所を見て応援したくなった。
	4時間が短く感じました。楽しかったです。ありがとうございました。
	まったく違う地域の方とお話できて、他の地域のこともわかって参考になりました。
	今回提案された案件をどのようにして実現すべきか？ひとつでもふたつでも実際に実現されること願っています。単なる話合いで終わりがたくない。
	色んな意見が聞けてよかったです。

第5章 資料編～配布資料

1 配布資料



さっぽろ
カラフル
さんかく
プロジェクト

いつまでも社会参画できる街へ

高齢者の社会参加を考えるワークショップ

つながる トーク&交流会

～いろんな世代が活躍するまちへ～

ワークショップの進め方

◆日時：平成28年12月18日（日）
10：00～14：00（9：45開場）

◆場所：かでの2・7 4階 大会議室
（所在地 札幌市中央区北2条西7丁目）

タイムテーブル

時刻	内容
10：00	開会、オリエンテーション（札幌市より趣旨説明など）
10：20	アイスブレイク、グループ分け
10：45	ワークショップ① 「社会参加」ってなんだろう？
11：10	ワークショップ② こんな社会参加をしてみたい！
12：00	昼食・休憩 （ファシリテーターによる発表）
12：45	全体の意見の共有 （各テーブルで出た意見のまとめ）
12：55	ワークショップ③ みんなで社会参加できるプロジェクトを考えよう
13：25	全体でプロジェクトの共有、投票
13：55	全体のまとめ
14：00	閉会、アンケート記入、謝礼（QUOカード）進呈

ワークショップ① 「社会参加」って何だろう？

○社会参加カードを使って、「社会参加」のイメージを共有します。

①社会参加カードの内容を確認しグループ内で「これは社会参加！」「これは社会参加？」を分類していきます。

(例)

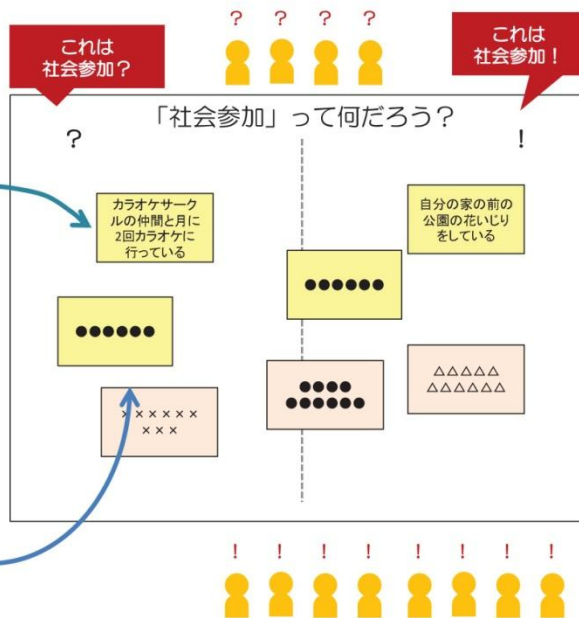
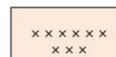
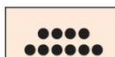
自分の家の前の公園の花いじりをしている

カラオケサークルの仲間と月に2回カラオケに行っている

カラオケサークルの仲間と月に2回カラオケに行っている

自分の家の前の公園の花いじりをしている

②社会参加カードの分類が終わったらみなさんで“ギリギリ社会参加”となるような例を考え、さらに分類していきます。



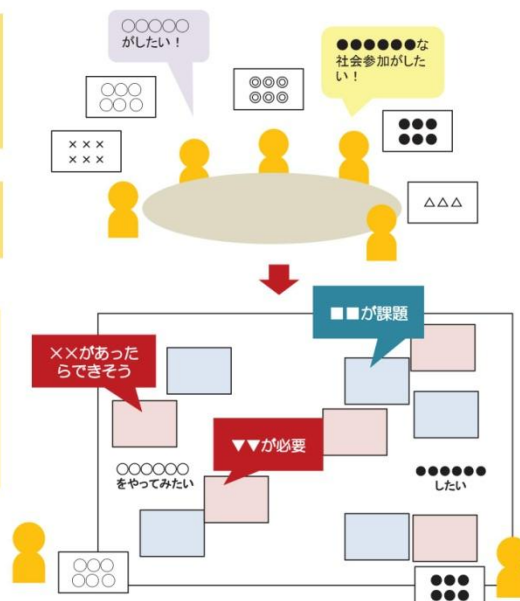
ワークショップ② こんな社会参加をしてみたい！

○「自分はこんな社会参加がしたい！」を切り口に社会参加を実現するために、**どのようなことが必要か**を話し合います。

①「自分はこんな社会参加がしてみたい！」「こんなふうに社会参加ができればいいな」をひとり1つ考え、ふせんに書いてください。(2～3分)

②それぞれが考えた「こんな社会参加がしたい！」を話し合いながら共有します。

③グループ内で**2つ**「こんな社会参加がしたい！」をモデルとして選び、モデルの社会参加を促すために、どんなことがあればよいか、**必要なもの**などを**具体的に**考えていきます。



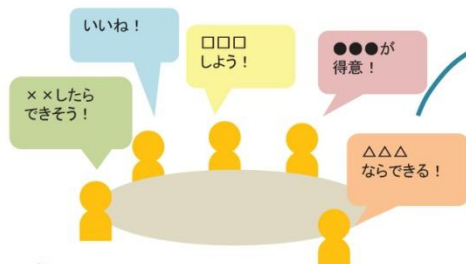
ワークショップ③ みんなで社会参加できるプロジェクトを考えよう

○グループのメンバーで、**みんなが関わることができる社会参加のプロジェクト**を考えます。

①グループで1つ社会参加のプロジェクトを考えます。



②自分だったらどのようにプロジェクトに関わることができるかも考え、具体的にプロジェクトの内容を考えます。



社会参加プロジェクトシート

(タイトル) ●●●●●●で社会参加	
概要	・・・で・・・を・・・する。
みんなでこんなことできる	□□□ する △△△ できる!
実現に向けて	



他のテーブルのアイデアを共有して、共感できるものや関わってみたいアイデアに投票します

2 アンケート票

高齢者の社会参加を考えるワークショップ つながるトーク&交流会 アンケート

質問1 「つながるトーク&交流会」に参加するきっかけについて

(1) この会の開催について何で知りましたか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

- | | | |
|---------------|--------------------|-----------------|
| 1. 広報さっぽろ | 2. 札幌市ホームページ | 3. Facebook ページ |
| 4. 家族、知人より | 5. チラシ（配布場所：_____） | |
| 6. その他（_____） | | |

(2) この会に参加したいと思った理由について、あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 興味・関心のあるテーマのため | 2. 今後の社会参加や活動の参考にするため |
| 3. 多世代交流ができるため | 4. 参加謝礼や昼食があったため |
| 5. 家族、知人にすすめられたため | 6. その他（_____） |

質問2 この会に参加して得られたことについて、あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 社会参加への理解が深まった | 2. 社会参加のハードルが下がった |
| 3. 社会参加の意欲がわいた | 4. 今後の活動の参考になった |
| 5. 活動の立ち上げに興味をわいた | 6. 他の人の意見が参考になった |
| 7. 自分の考えを整理することができた | 8. 多世代との意見交換の重要性を感じた |
| 9. 新しい仲間ができた | 10. その他（_____） |

質問3 もし、社会参加につながる“プロジェクト”（活動）に実際に参加するとしたら、どのように関わりたいと思いますか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

1. 今回のワークショップのように、いろいろな人と新たな活動を考え、立ち上げたい
2. 気の合う仲間と新たな活動を考え、立ち上げたい
3. 関心のある活動を見つけて、実施している団体・組織（NPO、町内会、サークルなど）に所属して継続的に参加したい
4. 関心のある活動を見つけて、その都度、参加したい
5. どんな活動にも参加したいと思わない

質問4 回答者さま自身について

(1) あなたの性別を教えてください。

1. 男 2. 女

(2) あなたの年代を教えてください。

- | | | | |
|--------|--------|--------|----------|
| 1. 10代 | 2. 20代 | 3. 30代 | 4. 40代 |
| 5. 50代 | 6. 60代 | 7. 70代 | 8. 80歳以上 |

質問5 その他、ご意見・ご感想などについてご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

第6章 資料編～グループごとの意見

1 ワークショップ②

■1 グループ

①地域交流カフェを通して社会参加

背景・動機	・地域交流カフェ、子ども食堂の運営 ・多世代が交流できる環境（場）を提供したい。 ・高齢者サロンのような、地域の子どもから若い人まで参加できるイベント ・自分の他経験したことを若い人に話してみたい。 ・経験を若い人に話すことができる場があれば伝えたい。 ・自分の経験を活かせることをさせてもらいたい ・高齢者、障害者、子育て世代が外に出ていきやすい場所が必要である。 ・お金に余裕がない人でも気軽に来られるようにしたい。
課題	○機会 ・環境（場所、機会）が整っていないから参加できない人が多いのではないか。
アイデア	○人 ・来訪者と話しが盛り上がるよう、できればいろんな区出身のスタッフがいると良い。 ・介護スタッフ、保育スタッフ、看護師など、来訪者に何か合った時にすぐに対応ができる人、場所があると良い。（アレルギーの対応など） ・特技や経験を伝えていきたいと考えている高齢者に、カフェの運営を手伝ってもらおう。 ・地域で運営することが人とのつながりも深まり、大事である。 ○スタートアップの支援 ・NPO、市に補助してもらいながらスタートさせる。 ○資金 ・子ども食堂のような、フードバンクなどを活用したい。 ・札幌市の補助金を活用する。 ○場所 ・使えなくなった小学校や居抜き物件を利用したい。 ・利便性を考えて車でしかこられない人もいると思うので駐車場が必要である。 ・地域で活躍している人が作った作品などを置ける場にしたい。 ・気軽に遊びに行ける場所にしたい。

	・参加者（特に高齢者）が若い人と話せると喜び、刺激になるため、高齢者、子育て世代、子どもが交流できるような場所にしたい。 ○環境の整備 ・自分の経験を活かせることとして、介護の経験があるのでお手伝いができる。 ○情報発信 ・地域で活躍している人にスペースを貸す（フリースペースの開設） ・地域で活躍している人の情報が発信できる場にする。 ・イベントのチラシを募集してお店に置いてもらう。 ・来た人が安心できる情報を得ることができる場所にしたい。
--	---

②あいさつを通して社会参加

背景・動機	・お互いを知るためにも、子どもたちへのあいさつ運動が大事（顔を見て変化に気づけることが大事）。
課題	○警戒 ・今の社会は、誰構わず人を警戒する風潮があり、特に男の人は子どもに触ってはダメなところがあり、なかなか声をかけられない社会になっている。
アイデア	○知識 ・視覚障害など、障害についての知識があるとなお良い。 ○接点をつくる ・気軽に始められるあいさつから社会と接点を持つ。 ・顔見知りになるには根気が必要である。 ○見た目でPR ・みんなでおそろいのジャンパーを着て安心感を与える。 ・地域で活動（あいさつ運動）する人がジャンパーを着ていることを広報で知らせるなどして、情報発信することで情報が行き渡るようにする。

③その他取り組みたい社会参加

背景・動機	○人助け ・街角で困っている人がいたら進んで声をかけるようにしたい。 ○夜間の区民センターの管理業務 ・現状で行っている。これも社会参加だと思う。
-------	---

■2グループ

①幼稚園小学校の前での集まり＋高齢者の集まり

背景・動機	・幼稚園前にいる親子との交流が月に1度でも、1、2度でもあると高齢者も若い頃の子育てを思い出したり、若いお母さんたちも心の交流が出来てお互いに楽しいと思う。 ・若い世代の親は子育てのストレスを軽減したり、子育ての相談をすることができる。 ・高齢者は自分の子育ての経験からアドバイスをしたり、若い世代から刺激を受けとることができる。 ・近場で困っている人がいるのに近所づきあい等も少ないので、かかわれる場がない、できることをしたい。 ・子育ての若い奥さんたちとの交流があると参加したい。
課題	○資金 ・活動の運営をつづけていくために、どのようにするか（寄付金をもらう、助成金をもらう） ・各自治会、町内会ごと24時間保育所の設置を義務づけている ・どのようなルールを設けるか。 ○信頼関係 ・接点をどうやってつくるか。 ・相互の信頼がないとうまくできない。どのように得ていくか。 ○交流の場 ・交流場所が都心部に集中しやすい、している。 ・交流の場所がよくわからない（知られていない）
アイデア	○信頼を築く ・お互いの信頼関係を築くためセーフティーネットを構築する。 ○特技や趣味を通じた交流 ・音楽を通しての交流 ○交流の場の設置場所 ・交流できる場所が都心部にかたまりやすいので、どの世代も寄り易く、気軽に入れる場所としてより身近な場所に交流できる場所を設置してほしい。 ○資金 ・活動するとして、運営している間の助成金を出してほしい。
自分でできること	○気軽な手伝い ・子育てや高齢者の交流の場の運営の補助ならできる。 ○調整する ・役所、社協との連絡係ならできる。

②多世代で防災を考えていく

背景・動機	・多世代で防災について考えたい。 ・札幌で自然災害が起きた時に災害ボランティアとして活動したい。 ・市民の方々が防災ボランティアに参加しやすい防災活動の場や仕組みをつくりたい。 ・耐震対策の方法がわからないため知りたい。 ・防災訓練など（救助マッサージ、AED、幼い頃からの防災教育） ・月に一度でも集会場に集まり話し合いたい。仲間づくりにもなると思う ・若い人ほど関心がなく心配である
課題	○機会 ・他人と一緒に考えることが少ない ・また、仲間も少ない ・町内会の役員が乗り気にならない ○場所 ・避難所生活を体験する場所がない。 ○きっかけ ・社会参加（ボランティアを含めて）に全然興味のない方をどう巻き込んでいくか。
アイデア	○交流の場をつくる ・各区内での集会所の活用が少ないので交流の場を設ける ○個人のレベルアップ ・非常用袋を常に玄関の横に置く、1、2年ごとに中身の入れ替えをするなど、防災のスキル養成していき情報提供をしていく。 ・今後できることとして、避難所の確認、防災用品の準備、家具等の固定、連絡網の準備をする。 ・町内会の仲間との付き合いから輪を広げていく。 ○関係機関との調整 ・災害支援もやっている NPO との連絡 ・防災士を呼ぶ

■3グループ

①交流機会をつくる

背景・動機	・多様な人々に社会参加を促すためには、たくさんの機会をつくる必要がある。 である。
アイデア	○知識の開放 ・地域に住む方々の知識や経験、技術がなくなってしまうのはもったいないため、それらを開放してもらう。

②農業を通じた交流

背景・動機	・“地域で” 農業がしたい。
アイデア	○場所 ・空地やマンションの屋上を利用する ○人や知識 ・耕す、植える、管理する、収穫する、調理など、いろんな人や知識が必要 ・役割分担が必要であり、それぞれに責任をもたせることで積極的な参加が促せる。

③スポーツを通じた交流

背景・動機	・ノルディックウォークを広めて健康時間を長くしていきたい。
アイデア	○関係機関の協力 ・怪我の心配等もあるため保育園等の協力が必要である。 ・地域の子どもたち（小3 ぐらいまでの子ども）ティーボールを通して体を動かすこと、運動の楽しさを感じてもらう。

④地域の見守り活動

背景・動機	・食事会やお祭りなど気軽に参加できる交流の場を多く持ち、顔見知りになっておくことが大切。
課題	○個人情報 ・社会福祉協議会で65歳以上のひとり暮らしの人を対象に見回りを行っているが、プライバシー、個人情報の面でなかなか打ち解けて会話ができない。 ○管理体制 ・組織づくりや、個人情報の管理などの課題がある ○信頼 ・詐欺なども多く信用してもらいにくい。
アイデア	○マッチング（紹介をする機会をつくる） ・独りで時間を過ごしている高齢者と子どもを保育園に預けられない人を会わせる。 ・人と人を結びつける仕組みづくりを行う。 ○町内会カレンダーの作成 ・町内会活動を月別に整理したカレンダーを制作し配布することで、活動を認知してもらう ・お金・スポンサー集めが課題であるが、スーパーなどから広告料として集めるなどのアイディアもある。

■4グループ

①地域マップの作成

背景・動機	・地域マップの作成（地域を意識して歩き、気づいたことを書き込む） ・年長者へ子育て支援へのかかわり方の情報を提供（支援や勉強の場、仕事、ボランティアの方法手段があることを知らせる） ・現状や課題をマップに集約することで、具体的な課題に対する取組みへとつなげることができる。
課題	○情報収集 ・各団体の情報がまとまっていないため、各団体の HP で情報を得る必要がある。 ・情報をまとめて見られる HP がない。 ・情報を集めるのが大変 ○人集め ・マップづくり（掲載する情報を収集する）をする人集めが課題 ・困ったときに必要な情報が手に入らない（子育て、病院、ごみ、除雪など） ○ボランティア活動について ・興味を持っても、団体への登録の方法がわからない。 ・団体の活動内容もわからない。
アイデア	○情報発信 ・さまざまな情報を提供できるように情報発信を行う。 ・紙とウェブ両方で情報発信を行うと、若い人も高齢者も活用しやすい。 ○集客 ・イベント化して人集めをすると良いのではないかな。

②場作り（対話の場、交流、ふれあいなど）

背景・動機	・困っているのは高齢者だけでなく若い人もである。 ・若い人と一緒に活動できると楽しい。 ・若い世代と交わる価値の共有のできる社会参加がしたい。 ・子育てサークル、ひろば内で高齢者とのふれあいの場にしたい。おもちゃ、遊びなど
課題	○資金 ・場所代、運営費、人件費などお金がかかる。 ○人材 ・ボランティアで行うことは難しい。 ・運営をする人がいない。 ○連携 ・現在は町内会、社協、学校関係、年代など、地域の組織がそれぞれで同じような活動している。 ○場所 ・話し合いを場所がない
アイデア	○場所 ・カフェに話し合いの場所を確保する（草取りなどの活動について） ・地区会館で実施している場所もある。 ・場所はまちづくりセンターが良いのではないかな。 →まちづくりセンターは敷居が高いのではないかな。1人で行きづらい。 ○距離感を保つ ・「素」でいられる場作り（そっとしておいてもらえる場所、ほっとできる） ○ボードレスにする ・病名、肩書、レッテルと関係なく地域の課題について対話できる場作ると人が来てくれるのではないかな。 ○地域と連携して行う制度 ・生計を立てながら地域活動ができる、地域単位で地域おこし協力隊のような制度 ・学生と地域の方で協力して行っていけると良い ・継続的に活動が続けられるバックアップ制度づくり（資金、賃金等） ・地域の病院や企業に場所を提供してもらう ・図書館、小学校、児童会館など既存施設を活用することも考えられる

■5グループ

①ボランティア

背景・動機	・健康づくり、清掃、音楽交流など、町内会活動を通じて社会参加をすでに行っている。 ・町内のためにゴミステーションの管理を行っている。 ・公園の美化運動に参加したい。
課題	・ボランティアに頼みたいが、道具代がかかってしまうため助成金制度があると良い。 ・老人クラブやサークルに対する助成のルールが厳しくなっている。

②冬の健康づくり

背景・動機	・夏は公園や広場で健康づくりのために体操などの取組を行っているが、冬も健康づくりを行う場を設けて取り組んでいきたい。 ・高齢者が健康づくりへ参加すると健康な高齢者が増え、医療費の削減にもつながるのではないかな。 ・冬の除雪や砂まきボランティアなどにも取り組んでいきたい。
課題	・冬の健康づくりを行いたい、場所などが課題である。 ・夏場は公園などで実施できるが冬は難しいため、冬の健康づくり施設が必要
アイデア	○活動資金 ・施設を借りるためのお金が必要になるため、免除や補助があると良い。

③子ども・子育て世代と高齢者の交流

背景・課題	・子どもや子育て世代と高齢者の交流につながる取組に参加したい。 ・地域にある幼稚園や保育園、児童会館など子育て関連施設と地域の高齢者の交流があるとよい。 ・すでに地域の子育て関連施設と日頃からの交流(除雪や資源ごみの回収など)があるため、そういった関係づくりを他地区でも行うことができるとよい。 ・子育てサロンなどでボランティアをしたい。 ・空き家を活用した交流施設づくりが必要ではないか。
アイデア	○意識の向上 ・日頃からの交流で住民の意識を向上することが必要である。 ○きっかけづくり ・高齢者が子どもたちと交流するきっかけをつくる ○関係機関との連携 ・子育て関連施設との交流のきっかけについては、町内会などの組織として交流を始めるのはハードルが高いため、まずは地域の何人かで施設の人とつながり、徐々に地域全体として関わりを持つことが出来るとよい。

④人材マッチング

課題	・市として仕組がるが周知があまりされていない ・高齢者の知識や特技を披露する場所があると良い。
アイデア	○ボランティア制度の周知 ・ボランティアの要望は多いが知られていないため、周知が必要である ○マッチングの仕組み ・地区版でボランティアのマッチングシステムを作ることができるとよい ・特技のある人が登録して人材マッチングを行うことができるとよい。

■6グループ

①市民講座をもっと広げたい

背景・動機	・今やっている高齢者の市民講座の参加者をもっと増やしたい（今でも 100 名は集まっている） ・新しい人に“気楽”に来てもらいたい。
課題	○場所 ・広い場所の確保が必要となる ○周知（人集め） ・（歴史などさまざまな分野で）興味のない人にどう届けていくかがわからない（情報発信など）
アイデア	○つなげる ・歌や踊りとセットにするなど違うテーマとセットで企画する ・（外国に行った時に役に立つのでダンスは覚えておいたほうが良い） ・広報誌には掲載されているので、イベントなどに来てくれた人にさらに友達を紹介してもらい参加の輪を広げていく。

②子育てサポート

背景・動機	・子どもが好きなので子育てサポートみたいなことがやってみたい ・子どもが好きなので資格がなくても保育の仕事ができないか。（おやじの会などスキーボランティアで） ・病院などで子どもたちとか関わることのできるボランティアに参加したい ・人のためになり社会貢献になるため達成感がある ・お年寄りとは子どもと関わると気持ちが若くなる ・子どもと関わることで親とも関わることができ、多世代交流できる ・人のために何かできることで自分の自信にもつながる ・ふれあい笑顔になることで健康につながる
課題	・子どもが大きくなると関係しづらくなる ・子どもから離れて久しいため体力的にも対処できるか不安 ・時間がない
アイデア	○情報発信とマッチング ・そのような取り組みや場所などの情報がわかると良い。 ・ミニコミ誌などをつくってみてはどうか。 ・今子育て中の人などとグループを組んで行う。 ・出来ることをやれるようにマネジメントした情報発信が出来る良い。 ・厚別にある子ども食堂はカラオケなど趣味の活動なども行っているので行ってみたいと思える。 ・趣味とセットで行けると行きやすい。

③その他取り組みたい社会参加（外国人のおもてなしのために英語力をアップ）

背景・動機	・最近外国人がたくさんいるため単語をたくさん覚えて外国人、子どもから大人まで興味を持ってもらいたい。 ・手を振り笑顔で通じるように外国の方と会話が出来れば良いのではないかな。
課題	・チャンスはあるが周りにひとがいるためなかなか声をかけられずにいる。 ・なんでも疑問を持つことが大切である。

■7グループ

①町内会活動に人を呼びたい

背景・動機	・まず町内を発展させたい ・町内会役員だけではなく防災関係の輪をもっと町内に広げたい。
課題	○参加者 ・地域活動に若い人が来ない ・同じ人が出ていて変化がない→発展性がない。 ○関心 ・地域活動関心がない ・近所付き合いがきらいな人が多い。監視されている感じ→距離を置きたい
アイデア	○目的をはっきりさせた話し合いを行う ・若い人は活動の目的や課題など、内容がしっかりと決まっていなとなかなか足が伸びないため目的などを決めて発信することが大切になる(ただの交流ではダメ) ○社会参加教育 ・年を重ねていくと人の世話になる機会が増えるため、若いうちから職場や教育現場で社会参加に関する勉強をするようにして、社会参加がより身近なものになるようにまちづくりをする。 ○距離感 ・隣近所の関わりがあまり好きじゃないと感じる人もいるので、程よい距離感を保つことは大切である。 ○楽しさ ・みんな楽しいことは参加したいと思うため、楽しいイベントを入口に参加のきっかけづくりを行う。 ○情報 ・働いていたときは広報さっぽろ見ていなかったため、若い人には SNS などスマホで活動を検索できるようにする。 ・紙媒体の情報発信も行う。(広報さっぽろ、図書館のリーフレット、)

②その他取り組みたい社会参加

- ・モニターツアーに参加する。色々新しいことを知ることができる。
- ・経験、知識の共有をし、自分の趣味をいかして勉強会等を行いたい。
- ・失敗した人を助けたい。
- ・マイノリティの人たちがどんな考えを持っているのか、意見を聞く場所を提供したい。
- ・弱い立場の人の意見を吸い上げる。
- ・車椅子の介助など、体の不自由な方のお手伝いがしたい。
- ・マンション組合活動や住んでいる人との楽しい交流。
- ・家庭菜園に関すること（相談を受ける）
- ・地産地消、町内会ぐるみで畑作り
- ・施設、参加、助手、組合活動
- ・スポーツイベントやボランティアを行いたい。
- ・経済的行為をすること
- ・老人介護施設を楽しくやる→取り組みを紹介したい（例：ゲタパイ 大きな麻雀パイの普及）
- ・自分の好きなことをとことんやる。自分でやりたいことを考えたい。
- ・子どもに本の読み聞かせがしたい。

■8グループ

①子育て、独居老人の手助け

背景・動機	・子育てで困っている方の手助け、家に閉じこもっている人の手助けがしたい。
アイデア	・人、人材の必要性 ・いじめをなくす ・母親、父親へのカウンセリング ・貧困の撲滅

②町内会で福祉、介護活動

背景・動機	・町内会活動をもう少し積極的に関わりたい（福祉・介護、地域の見守り活動など）
アイデア	・役員が古い ・新しい若い人、人事の刷新 ・会計管理の多彩化 ・町内会ごとに併せて検討が必要

③病院内のボランティアアドバイザー

背景・動機	・病院内のボランティアアドバイザーを行いたい。
アイデア	・品物集め ・仲間集め ・人を倍に増やして

④はがきを使った交流

背景・動機	・はがきツイッターを行いたい（はがきを買いに外出、手書きで自分の思いを書く）
アイデア	・仲間づくり ・ルールづくり ・SNS を利用できない世代の交流

⑤幼児・小学生の芽を伸ばす支援

背景・動機	・幼児・小学生の芽を伸ばす。母親の相談やカウンセリングなどの場づくりと交流
アイデア	・子どもと高齢者との交流の場 ・母親対象のワークショップ

■9グループ

意見の出たそれぞれの活動について、参加者の年齢を考えてみたところ、健康であれば上限はないのではないか、という結論が出た。

①子ども、シニア、町内会の活動を組み合わせた活動を行いたい（子どもの介護施設での職業訓練）

背景・動機	○子ども ・職業体験（小学生）の受入れ（30代～） ・学校で何か子どもと触れ合うイベントを行う（中学生～） ○シニア ・介護予防教室のプログラムの手伝い（30代～） ○町内会 ・町内会活動の参加（子ども～） ・もちつき大会など町内会で人手がいる行事に参加する（18歳～）
アイデア	○連携 ・職業体験や地域での職業訓練の受入に町内会が関わり、職業体験の企業と学校をつなげる役割を町内会が担う。 ○受け入れ先 ・高齢化により介護施設の人手不足が緊急性を要しているため介護施設に職業訓練を受け入れてもらう。 ○必要経費 ・ボランティア活動は自費で全てをまかなうことが多いため、交通費や通信費など必要最低限の経費を貰えると良い。

②その他取り組みたい社会参加（※カッコ内は社会参加する人の年齢）

子どもに関する社会参加	・職業体験（小学生）の受入れ（30代～） ・学校で何か子どもと触れ合うイベントを行う（中学生～） ・子どもと活発なふれあい（中学生～） ・子どもを増やすこと、社会制度の改革（18歳～）
シニアに関する社会参加	・高齢社会における介護業務（18歳～） ・介護予防教室のプログラムの手伝い（30代～） ・シニアカフェ（多世代交流）（30代～）

町内会に関する社会参加
・町内会活動の参加（子ども～） ・もちつき大会など町内会で人手がいる行事に参加する（18 歳～） ・地域のお祭（参加者も減っている）（子ども～） ・子どもから高齢者まで当たり前に顔が見える世の中づくり（運動会のようなイベント）（子ども～） ・まちづくり（職場の近くで頓宮の集いが開催されている）（30 代～） ・イベントで力作業などいろいろと動く（中学生～75 歳） ・冬期間の自宅周辺の道路の砂まき（小学生～） ・地域の合唱団の子どもの見守り、当番（18 歳～）
特殊技能を要する社会参加
・救命講習を伝える ・札幌に来る外国人に対するサービス・相談（特に困っていること）
その他
・セミナーで学んだことを友人に伝える（小学生～） ・自分のためになり人のためになるボランティア（小学生～）

■10 グループ

①みんなが集まる場作り

背景・動機	○その場でやりたいこと ・体操（ラジオ体操やヨガ） ・手芸、生花、俳句 ・お茶を飲みながら雑談 ・世代間交流ができるイベント（季節ごとなど） ・フリーマーケット
アイデア	○コンセプトを決める ・目的や内容をきちんと確立しないと、場所があっても意味がないため“場”の目的や意味付けを行う。 ・若い人と高齢者が接点を持てるような内容を考えるべきである。
必要なもの	・資金→会費制か年会費制かなどの仕組みも検討が必要 ・場所の確保→空き家の利用なども考えられる ・周知方法→PRの仕方に工夫が必要 ・リーダー→リーダーの存在が不可欠

②その他取り組みたい社会参加

背景・動機	☐ 関心を持ってもらう場や機会づくり（町内会活動の継続） ・町内会活動に参加する。 ・防災に関心を持つ。 ・震災にあった人への救援をする。
	☐ 農家とのコミュニティ ・生産者の方が行う物品販売のイベントへの参加（顔の見えるつながり）
	☐ 話し合える場づくり ・地域で求められている活動へのボランティア参加 ・地域の問題や関心等を話し合える場づくり、参加
	☐ 高齢者のためのイベントに若い人を参加させる ・町内会のイベントに参加する。
	☐ カフェでの気さくな話し合い ・朝活にたくさん出る。
	☐ 地域の清掃 ・近所の神社やお寺を定期的な清掃をしている。
	☐ まちの花植え活動 ・花が好きなため園芸のしごとがしたい。
	☐ 子どもに読み聞かせ ・読書の会に参加
	☐ ペットの世話（不在のときなど） ・散歩を続けているので犬の散歩もしてみたい。
	・高齢者への支援（ひきこもり防止、講座、災害時のつながり・通信網の確立） ・ソーシャルビジネス、NPO 等での活動に関わりたい

■11グループ

取り組みたい社会参加（それぞれを掛け合わせて取り組む）	
・年齢、職業に関係なく将来のことや悩みを話せるような場所に参加してみたい ・企画を発案し社会参加を促す（お祭り、ボランティアなど） ・これと言って特に思いつかないが、身近なことに興味をもつ ・高齢者福祉施設での高齢者が自分たちで支える社会づくり ・アートや歌声を通じた特技を活かした多世代交流カフェをつくりたい ・子育てママのり楽すの場づくり	

①自分発信で多世代が話せる場をつくりたい

課題	・大学生の放課後はバイトと遊びがほとんどであり地域との交流がない。
アイデア	○若い人と地域がつながる仕組みづくり ・大学生はバイトや遊びが余暇の中心のため、バイトとは違う社会とのつながりの場を経験する、させる。 ○学校との連携 ・大学で講義や単位として参加してもらう。 ・学校との連携を行う。 ○気軽さ ・スナックのようなライトなつながりだと話しやすい。 ○自分から発信する ・多世代と関わるために自分から勇気を持って声をかけてみる。

②高齢者が自分たちで支える活躍の場をつくりたい（高齢者の特技を活かしたサロン）

背景・動機	・高齢者施設には元気なお年寄りがたくさんいる
課題	・施設などで活動を行う場合、怪我の問題がある
アイデア	○活躍の場づくり ・高齢者施設にも元気なお年寄りはたくさんいるため、働く、支える立場として活用する。 ・いろいろな特技の人が関わり新しいアイデアを生み出す。 ・サロンを通して顔の見える関係づくりを行う。 ○仕組みづくり ・高齢者施設などで自分たちで出来ることをやさせてくれる仕組みが必要 ・怪我の問題や責任のありかがなどをどのようにしていくかを検討する。 ・受け入れてくれる施設や活動する高齢者にノウハウのレクチャーを行う。 ・老人福祉施設など、小規模の施設で試験的に特技を生かして支えることをやってみる。 ・高齢者の特技と施設のニーズ（こんな手伝いをしてほしいなど）とのマッチングを行う。

①、②の共通項

課題	○きっかけ ・きっかけがあったら参加したいと思うが、あまりない。 ○情報 ・ボランティアや活動がたくさんあるが、活動自体が伝わっていない。 ○資金
アイデア	○文化的つながり ・共通の趣味・特技があると多世代とつながるきっかけとなる。 ○理解を深める ・世代間の理解やボーダレスな参加が重要である。 ・高齢者は「今時の若いものは」と言わないようにする。 ・世代間の認識の差はお互いに話をする機会で解消していく。 ○有償ボランティア ・無償ではなく有償ボランティアにすることで参加を増やす。 ・無償のボランティアだと限界がある。

■12グループ

“何もしないで生きるより何かを求めて生きようよ（水戸黄門より）”を社会参加のテーマとして考える。

①引退した仕事の知識や経験を生かしたい

背景・動機	・キャリア経験を活かして他人に施すことがしたい。 ・引退したプロが経験を生かして、専門分野（デザインなど）のアドバイスをしたい。
アイデア	○お金を払う ・お金が出てもいいのではないかと、有償ボランティアやNPOに参加することで年金の足しにしてみようと思う。

②ボランティア活動

背景・動機	・札幌市で企画する行事のボランティアがしたい（雪まつり、クリスマス市など）
課題	・ボランティアしたくもどうすればいいかわからない。 ・発信・広報が足りない。知ればやってみたいという人はいると思う。 ・広報不足でどのような内容のものかわからない。 ・テレビなどで大々的にボランティアの募集をかけてほしい。

③引退したい人やボランティアしたい人にボランティアの紹介をする

背景・動機	・取り組みたい社会参加①、②に起因する。 ・起業してボランティアをやりたい人とボランティアを頼みた人を結びつけるマッチングの仕事がしたい。 ・ボランティアのマッチングをする団体が足りていないように思う。
課題	・交通の足の確保必要（交通網の整備、パスなど）
アイデア	○人材バンクのような組織が必要 ・できることや求められていることを把握する人材バンクのような仕組みや団体があると良い。 ○情報発信 ・情報発信を充実させる。 ○ボランティア有償化 ・有償にすることで、やりがいや責任感を持たせたり、ボランティアしている高齢者の方の年金の足しにしてみよう、長生きしてもらいたい。

④多世代交流

背景・動機	・同世代だけではなく多世代の交流を行いたい。 ・同じ世代の人が集まる社会は社会参加といえるのか（サ高住など） ・なんでもお金でのつながりになってしまいがちなので、商売ではないつながりをつくりたい。
アイデア	○住むところから ・高齢者施設に若い人が住むようなものがあってもよい。 ○偏見を持たない ・年齢によって偏見を持たないで広く多くの方と関わるのが大事である。

⑤その他取り組みたい社会参加

背景・動機	○ゴミ拾い、ウォーキング ・健康に関することの普及啓発がしたい。
アイデア	・運動もできる範囲が人をそれぞれなので専門家の目線で分けることが必要

■13 グループ

①いろいろな世代の人と交流

背景・動機	・高齢者の見守りにつながる活動 ・札幌市のボランティア活動に参加する。 ・単身者の料理教室 ・家庭のお悩み相談室
課題	○時間 ・沢山の人が参加しやすい時間設定が難しい。
具体的な活動のアイデア	○多世代とつながる交流・参加のきっかけづくり ・自分のスキルを活かした交流の場をつくる。(介護体操教室の開講など) ・年配の方と話してみたい。交流してみたい。 ・体操教室を開講したのでその場を活かしたい。 ・若いアイデアを活かした広報を行いたい。 ・あまり他人と関わりたくない考えの方向けに日常のお手伝い(買い物ボランティアなど)で関わると良い。 ○企画や発信から関わる ・活動やイベントの宣伝・広報のお仕事を若者と一緒に行う。 ・そのためにまずは若者とつながるきっかけが必要

②若者とつながるきっかけをつくる→新しいサロンやイベントを若者向けに開催する

背景・動機	・開催場所が無い ・資金が無い
課題	○学校祭へ地域の人参加する ・学生にとっても地域の方がもっと来て欲しいと思っている。 ・地域の方が学校祭の日にちを知らない。 ・学校の内部だけで行っているイメージがある。 ・現状、高校などは学生の保護者のみの参加などの規制もある。

③ “新しい”を感じる場（若者・学生の意見）

背景・動機	○自分が経験したことのないことをやってみたい ・もちつきはいつも行っているので、もちつきの臼、杵づくり
課題	○情報 ・若者にとって地域が普段行っている行事・活動の情報はなかなか入ってこない ・回覧板や地区センターなどの掲示板は若い人はあまり見ない →よく見る情報源 SNS (Twitter、Facebook) ・学校の掲示板の活用
具体的な活動のアイデア	○情報発信 ・学生が学生向けに地域の活動を SNS などで発信していけると良い。 ・同年代に向けた情報発信のためには、まずは若い人が地域活動に関わるきっかけが必要

④情報発信

背景・動機	・ボランティアへのきめこまやかな情報発信をもっとしてほしい ・札幌市からのより積極的な告知があると良い
アイデア	○情報 ・札幌市のボランティア情報のチラシなどを、町内会を経由してもっと多く配布する。 ・SNS で発信していく。

⑤スキルを活かしたい、スキルを教えて欲しい

背景・動機	・自分のスキルを町内会に活かしたい
具体的な活動のアイデア	○マッチング ・「知らない（お願いしたい）人」と「知っている（できる）人」をマッチングさせる ・寺子屋のような場所を作り

■14グループ

背景・動機	○各種ボランティア活動（スポーツ、医療など） ・老人ホームでピアノを弾く（ボランティア）ことをしたい。まだピアノは弾けないが、弾けるようになってチャレンジしたい。 ・介護のボランティアなど、空き時間でやれることをしたい。 ・病院の花壇整備のボランティアなどに取り組みたい。 ・多くの人と関わる社会参加がしたい。人のためになることがしたい。 ○みんなの相談窓口 ・自分自身の経験、知識、スキルを生かして様々な相談を受け付ける活動を行いたい。なるべく無料で実施したい。登記関係、会社設立など相談を受け入れられると思う。 ・「命の電話」など、行き詰っている方の悩みを聞くボランティアをしてみたい。 ○団体間、支援先をつなぐマッチング ・ボランティアを必要とする人、または団体や施設と、活動をしたいと考えている人をマッチングさせる仕組みが必要ではないか。 ・高校、大学などにつながれると良い。若い世代ならではの発想を活動に活かすことや、社会参加の必要性を広める機会になる。 ・高校、大学ほか人同士、ニーズとシーズをマッチングさせることや、仲介する機関が必要ではないか。
アイデア	○楽しいと思えることを実践する ・気軽に参加出来る（対象、料金など）も大事だが、自分自身が楽しいと思うことを見つけて、簡単なことから行動してみることが大事ではないか。 ○自分自身の特技を生かす ・技術、スキル（特技）を生かして他人に喜んでもらう。 ○独りよがりではなく、win-win の関係をつくる ・自分自身が満足できるだけでなく、他者（支援を受ける側の人）と win-win の関係になることが大事である。相手にも良い影響が与えられると良い。 ○情報を受け取る、発信する ・基本的には自分から情報を取りに行く姿勢が必要である。 ・公共的な場所で情報は手に入りやすい。 ・スーパーなどにチラシなどがあると良い。 ・何をして良いかわからない人に、今日のワークショップのことを家族や友達に話すだけでも楽しさが人に伝わる。 ・札幌市には社会福祉協議会があり、そこでボランティアの募集や紹介をしているため、同協議会の存在を知らせていくことが必要である。

■15グループ

①ごみ拾い

背景・動機	・ゴミが多い地域でのゴミ拾い ・ススキノにもゴミが多いといつも感じる。昼間汚いのでゴミ拾いの時間帯を考えたほうが良い。
課題	・空いた時間に、何かを行いたいという気持ちはあるが、きっかけがない。短時間のもので良ければ行いたい。 ・ひとりで行うと目立つため、なかなかできない。
アイデア	・ゴミ拾いをすることで何かいいことがあると参加しやすい。 ・まちにゴミ箱をもっと設置してはどうか。

②若者の社会参加

背景・動機	・若年層への社会参加の方策を考えたい。 ・自分が何だったらできるか考え中である。 ・まちゼミを行いたい（若い世代より） ・運営しながら参加者と関われるため、商店街のお祭りのボランティアをやってみたい（若い世代より） ・どんなことをやっているのか見えないと参加しづらいので、ブログで楽しそうなこと（活動）を発信していきたい。
課題	・情報発信が課題、図書館に行くとパンフレットがあるが、見る人が限られている。 ・若い人は SNS で情報収集している ・参加するきっかけがない
アイデア	○まちゼミの無料講座 ・若い人は年長者に SNS の使い方を教えて情報発信を効果的にできるように支援するイベントのスタッフ

③冬の雪かきの手伝い

背景・動機	・今やっている以上に行っていけば助かる人がたくさんいるため ・社会福祉協議会のもとだとお金が出るため、人間関係が微妙になる時がある。
課題	・ボランティア同士の人間関係が大変である

④その他取り組みたい社会参加

背景・動機	○高齢者の社会参加 ・ひとり暮らしの高齢者の見廻り活動 ・シニアスクールが清田区にしかないから他区でも行えば良い。
	○小学校の先生の補助 ・小学校では、小学校2年生のクラスで先生1人につき1人～2人の補助を雇っている。先生の補助をボランティアで行いたい。

2 ワークショップ③

■ 1 グループ

タイトル	地域交流カフェプロジェクト！
プロジェクト概要	・日中は誰でも来られる場所である。 ・学校終わりは、子ども大歓迎なカフェ（地域の人が見守るカフェ） そのためにも、地域のニーズを知ることが大事である。 ・NPO で子ども食堂 ・昼：大人向けカフェ・・・子どもが勉強でき、大人が見守りできる環境 ・子育て世代が来る、子どもも来る ・世話役：お年寄り、ブランクのある保育士（誰でも） （お金をもらうとなるとしっかりとした責任が必要になる）
みんなでこんなことができる	・コーヒーやお茶出しくらいならできる。 ・時間的タイミングがあれば軽食・料理がつくれる。 ・大人の遊びがある 囲碁、将棋、運動、編み物、押し花 自分の経験を話せる（テーマを伝える、話してもらう） ・お店の景観として、カフェの前に花壇を設置してコミュニティガーデンを作る。 ・手作りレンタルボックスで地域のものを売る。 ・高齢者が来たくなる空間を作る。 ・お母さん達も子どもも入りやすい雰囲気である。
実現のために	・カフェができる物件、場所を見つけるのが大変である。 ・目的がしっかりしていれば、社協と協力して作り出すことも可能だと思う。 ・交通費とお昼代を出してくれたら参加したい。 ・子どもが遊べるスペースが欲しい。

■2グループ

タイトル	地域の防災力を高めよう！！
プロジェクト概要	個人／家庭での防災力を高める→地域に広める
みんなでこんなことができる	・ 普段集まらない人とふれあう機会を作る ・ 世代間の交流、多様なスキルの共有（協働） ・ タンス（家具）を止めておく等、みんなに呼びかけをする ・ 避難訓練（レクチャー）→運動会などのイベントに絡めて防災 ・ グループのワークショップをする ・ 学習できる場を作る、出前講座の利用（市に頼む）
実現のために	・ 1人1人の防災力を高め、町内会の防災力を充実させる →月に1回ほど話し合う場を作る（会館・まちづくりセンター） ・ 個人→備蓄、情報収集、防災イベントへの参加、耐震を知る・強化する、防火

■3グループ

タイトル	農業でピンコロ（仮）
プロジェクト概要	・農業を通じて三世代交流を促し、いつまでも健康でいながら天命を全うする ・畑起こしから食べるところまで一貫して行うことで、子どもたちにはたくさんの経験と教育の機会を与え、高齢者には身体を動かし、たくさんの人と触れ合う機会を創出する。 ・年間を通して、様々な作業が発生し、打ち合わせや引継ぎが必要であり、みんなのやる気と責任感が生まれるため、継続しやすい
みんなでこんなことができる	・計画づくり リーダー：元農家のおじいちゃん ・畑起こし リーダー：元農家のおじいちゃん 参加者：みんな（老若男女） ・植付け リーダー：元農家のおじいちゃん 参加者：みんな（老若男女） ・管 理 リーダー：担当作業にリーダーを設置 参加者：みんなで当番制 ・収 穫 参加者：みんな（三世代） ・調理（交流会） リーダー：地域のお婆ちゃん 参加者：みんな ・おひろめ会（交流会） 参加者：みんな＋友達・知人 ⇒食べてもらって仲間を増やす ⇒将来的に「市民収穫祭 in 札幌ドーム」といった、それぞれの地域で作られた農産品や加工品などを披露する場を設ける。その収入を次年度の予算に充てる
実現のために	・農地をどうするか ⇒空き地・私有地等の確保 ⇒マンションビル屋上 ・冬どうするか ⇒ハウス栽培なども考慮 ⇒何を植える、色々な種類を植える ⇒来年の計画 ⇒保存（ジャム、漬物）、販売 ・組織のあり方 ⇒業務分担は明確にする ⇒学童との連携 ⇒ゲートボールなど遊びの要素も入れ、三世代交流を促す

■ 4グループ

タイトル	地域情報の見える化プロジェクト		
プロジェクト概要	・地域の情報や課題をマップに集約し、必要な情報が手に入るようにする ・地域マップ作り(情報の集約化) ・場づくり(交流・ふれあい・対話・会話) ・マップに載せるもの 地域の課題の抽出をする、課題・情報の共有 課題:環境美化、施設、公衆トイレ、授乳室、おむつ台(女子トイレにしかおむつ台がない場合お父さんはどうするのか) 情報:子育て、不審者、介護、病気・病院、保育園・幼稚園、子育て広場サークル、子ども 110 番の家、図書館・放課後の子どもの居場所見守り・地域組織の仕組み、成り立ち情報・拠点など ・子育てボランティア研修・高齢者見守りなど活動団体、内容・研修・利用・支援方法 ・独居孤独死・ダブルケア 子育て・介護の掛け持ち ・見守りお散歩コース(商店街の各店舗が見守りをする事で、認知症の人が一人でも散歩できるルート map) ・多世代交流→互いにエネルギーをもらえる ・敷居の少ない環境→ゴミ出し、雪かき、家事支援につながる ・ひとりぼっち ・孤独死 ・自分の伴侶を見つける		
みんなでこんなことができる	・情報の確認(情報・課題)→マップの集約作業(データ化) →マップ内容をアプリ化 <table border="1" data-bbox="438 1265 1396 1500"> <tr> <td data-bbox="438 1265 941 1500"> 高齢者に対して ・健康相談(主訴の整理)→受診支援 ・イベント企画、高齢者向けのIT教室 </td><td data-bbox="941 1265 1396 1500"> 子どもに対して ・見守り ・子ども食堂 ・塾・学習支援 ・イベント企画、母親向け講座 </td></tr> </table> ・子育て相談窓口 ・場所を運営する人材発掘・確保 ・子育てに関わる機関との連携・参加	高齢者に対して ・健康相談(主訴の整理)→受診支援 ・イベント企画、高齢者向けのIT教室	子どもに対して ・見守り ・子ども食堂 ・塾・学習支援 ・イベント企画、母親向け講座
高齢者に対して ・健康相談(主訴の整理)→受診支援 ・イベント企画、高齢者向けのIT教室	子どもに対して ・見守り ・子ども食堂 ・塾・学習支援 ・イベント企画、母親向け講座		
実現のために	・組織化、横断的な連携 町内会、社協、学校、福祉関係、児童館、病院など(地域にかかわる組織全部) 場の確保 企業・病院などを巻き込んで提供してもらう ・場所の確保 地域の企業や病院などを巻き込み、活動の場を提供してもらう 企業等にとってもイメージアップになる		

■5グループ

タイトル	横のつながりプロジェクト（いいことを発信しよう！）
プロジェクト概要	・人材マッチング 地域同士・人同士のつながりをつくる 特技を披露したい人やボランティアしたい人と受入先をつなぐための情報を交換 ・特技を持った人の情報を発信（インターネット、紙媒体、TVなどを活用） ・事例的にボランティア体験談を載せる →ボランティアを初めるきっかけのハードルを下げる ・マッチング情報の管理は、地区単位だとまちづくりセンターなどが窓口になる 紙媒体を地域の施設に配布 TV番組やインターネットで市内の情報を一括で発信 どこで、どんな取組をやっているのか情報発信が必要
みんなでこんなことができる	○情報収集（地域住民） ・人材の情報を集める ・集めた情報をマッチング管理者へ報告 ○ボランティア体験談の発信（ボランティア参加者） ・体験談を発信し、ボランティア登録のきっかけのハードルを下げる（少し不安を解消できるかも） ・経験者のインタビュー記事を事例として紹介 ・本会議などの意見交換の場に参加した市民が情報を地域に発信する
実現のために	・個人情報の課題 ・窓口は行政になる場合は、担当部署の連絡先など、FAXも含めて明記する

■6グループ

タイトル	学びと育児の広場づくりプロジェクト
プロジェクト概要	・地域の大人（おじいちゃん・おばあちゃん）と町内会や学校（の先生）を巻き込む ・伝統日本文化を、遊びを通じて学び繋げていく ・伝統文化が途切れている、繋げていきたい
みんなでこんなことできる	○大人（親・お年寄り） ・全ての日本らしさを失いたくない ・歴史を学ぶ ・もちつき ○子ども（幼児・学童保育・小学校の先生） ・童謡を歌う→童謡はきれいな日本語を聞く機会にする ・旧カナづかいを学ぶ、正しい日本語を学ぶ ・百人一首、けん玉→「ちはやふる」など、ゲームや漫画で興味を引く ・けん玉に級がある、左利きけん玉はモテた ・絵本の読み聞かせ ・遊びの中に日本伝統を入れる ・昔遊びを教えられる人が必要になる ・読み聞かせは出来そう
実現のために	・時と場所（日曜のPM） ・町内会の三世代交流イベントの時 ・町内会で連携 ・若い人が町内会にいない、どうやって若い人を取り込むか ・発起人会が必要、何人かで立ち上げる人が必要 →企画運営するための場をまず用意する

■ 7グループ

タイトル	世代間交流を促進したい（人のつながりを作る）
プロジェクト概要	<背景> ・地域イベントに若者が参加しない →お友達交流で参加して、初めて来た人がポツンとしてしまう ・世話役が古参の人 →やることが決まってしまう（マンネリ化） 変えたい…・新しい意見が欲しい ・フレッシュな組織で、フレッシュな気持ちで進めたい ・参加しなくても安全・安心 →参加しなくても良いと思ってしまう
みんなでこんなことできる	・地域の安心安全のために町内会があることを伝える ・町内会の「そもそも」を伝える ・共有できる目的を作る 例）健康寿命を伸ばす→食イベント、ラジオ体操 ・出ていく名目が欲しい（手段として町内会イベントを活用）
実現のために	・町内会は「何のために」「何をやっている」を教えてほしい ・お互いにできることを出し合う ・声掛けを続ける（最初の一声が大切）→まず、仲良くなる（土台作り）

■8グループ

タイトル	町内会誰一人見捨てないプロジェクト
プロジェクト概要	かかりつけ町内会 ・町内会を軸とした福祉・介護 ・町内会を軸とした子育て（父母）・独居老人の手助け ・町内会で病院のバザーをサポート、介護施設など ・町内会の子どもたちのサポート
みんなでこんなことできる	・留守番 ・病院・通院の手助け ・ちらしで情報発信 ・民生委員の育成 ・雪（除雪）のサポート ・手作り品の作成 ・バザーの運営 ・子ども食堂の運営 ・子ども声かけ
実現のために	・仲間づくり ・回覧板 ・品物の管理

■9 グループ

タイトル	地域と世代をつなぐ	
プロジェクト概要	地域の小中学校と介護施設をつなげる活動を町内会ぐるみで行う コーディネーターは地域の人間が行う	
みんなでこんなことができる	・子ども ・18才～64才 ・シニア	学校で教育を受ける (町内会役員や介護施設の職員が授業を行う) 空いた時間で社会参加(2～3時間でもo k) →介護施設の入居者を外に連れて行ってあげる 交流介護施設の入居者が学芸会などを見に行く 町内会で手助けする (町内会でバスを出して、高齢者が移動するなど)
実現のために	・子ども ・18才～64才 ・シニア	職業体験や出前授業を行うには、校長の許可が必要 残業が多い・忙しい→子ども・介護に関わる時間がない パート優先になってしまうという課題 交通費や通信費等、最低限の実費を市で負担してほしい 世代間を繋ぐ人(コーディネーターなど)が必要 地域の人間がコーディネーターを行う 介護施設長・支援センターがコーディネーターを行う 積極的に社会参加を行うには、健康であることが必要 ボランティアに対してシニア世代が100円・200円でも支払う仕組みがあるとよい

■10 グループ

タイトル	ふれあいサロンづくり (社会参加のための社会参加)
プロジェクト概要	・多世代で話し合える場の創造 ・地域性を活かしたグループやコミュニティサロンの形成
みんなでこんなことができる	・若い人 パソコンの使い方 スマホの使い方 ↑ ↓ ・高齢者 昔の遊び 折り紙 畑づくり 歌声サロン 本の読み聞かせ お互いが得意な分野を活かして コミュニティを促進する
実現のために	・ふれあい ↓ - 参加したくても、気軽に加わることができない ↓ - きっかけづくりが必要 ↓ - リスト作り →「わたしはこれができる」「わたしはこれがやってみたい」といったことがわかるもの →出来る側とやってみたい側とのニーズを結びつけることができるものがあるとよい (例) - リサイクルしている ← → 使わなくなった本を出したい

■11グループ

タイトル	「私の社会参加コレクション」「裏方もみんな主役」
プロジェクト概要	・高齢者が活躍できる、多世代交流ができる場づくり ・楽しくないとやりたくない、特技を知ってもらおうきっかけを待っている ○健康 スポーツ、軽めな運動で、多世代 →散歩に行く →まちぶらイベント→まちを好きになる（ハロウィンウォークを地域で行う） →愛着が湧いて地域活動に多世代で関わっていく（どんどん参加が進む） ○ファッションショー ・活動スタイル見てもらうだけで張り合いが出る ・それぞれのユニフォームを着て自己主張！ （自分の思いを書く、伝える メッセージ、ブックなどをつくる）
みんなでこんなことができる	・企業は資金などをバックアップする ・企画、実行委員会に入る ・「いっしょにやる」ことで中に入る
実現のために	○目的のはっきりしたWSのような話しあい ・ワークショップをもっと小さな単位で行う、町内会とかでも良い ・ほっといても人が来るビアガーデンです ・交流の場所 世代と問わず意見交換が大事 ○小さいメディアに取り上げてもらう ・“知ってもらう”イベントをもっと広く知ってもらう。 ・どんな所が情報を取り上げてくれるか確認 ・人の目につくところに冊子おいてもらう ○大学と連携する ・地域活動に関心ある大学と連携し、卒業してからもつながりを保つ

■12 グループ

タイトル	ご近所先生プロジェクト
プロジェクト概要	・高齢者の方が昔遊びや地域のこと、今しか聞けない体験を若い世代に伝える ・中高生、大学生の部活動で音楽や体操など今ドキのことは逆に教えてもらう
みんなでこんなことできる	・健康づくり ・公園での活動、多世代が交流する場としての公園 ・学んだことは地域で還元 ・ワークショップ型でみんなで話し合う形 〈高齢者が若い世代に教えてあげられること〉 ・戦争の話（90代～）も今しか聞けないので大学生などに伝えたい。 ・今とは違う昔の職場体験（PCのなかった頃など） ・昔遊びを子どもたちに教える ・保育所として機能する ・昔の文化の違い、恋愛の仕方など（手紙・ペンフレンド）を教える 〈若い世代が高齢者に教えてあげられること〉 ・SNSなどを逆に教えてもらう ・クラブ活動の音楽・体操などを老人クラブに派遣して教える
実現のために	○場所 場所の確保 室内利用できる施設 地区センターなどの開放や学校との連携が必要である。 ○人材（中心となる人）→町内会が中心に取り組むのが現実的ではないか。

■13グループ

タイトル	21世紀版！寺子屋プロジェクト ～若い人との関わり・多世代交流・つながるきっかけの場～
プロジェクト概要	・地域活動に常に参加できるシステムを作り、地域活動をしたい人のプラットフォーム（ニーズのあるところへ派遣）とする。 ・参加してくれた人には、お金が少し出るなどの見返りをつける。 ・参加対象は中学生以上 ・学生は担当地域を持ち、1年目は先輩と一緒に、2年目は主体として後輩と一緒に活動に取り組む
みんなでこんなことができる	○企業からの協賛や協力を集める ・ポスターの下に宣伝入れる ・新聞会社に協力してもらってチラシを配る ○体制 ・地域の特技持っている人をリスト化する→事務局が必要 ・学生にはサポート役が必要→地域の人から募る ○自分たちが今できること・環境を活かした情報発信 ・学生への情報発信（学生から学生へ） ・インターネットでの情報発信（IT企業に勤める方が実施） ・体操教室で情報発信（自分が運営する体操教室の活用）
実現のために	・運営資金の調達 ・活動場所が必要（公共施設はなかなか借りにくい） ・NPO法人化も良いが、手続きなどがややこしい印象もある。 ・札幌市の監督・援助は必要。

■14グループ

タイトル	YOROZUYA（萬屋）相談仕事人
プロジェクト概要	・1億総社会参加を大きな目標とし、その一助を担う。 ・専門外のこと、特殊なことは別機関へ紹介するようなハブ機能も果たす。 ・ちょっとした悩みを受ける“第一歩”になれる。 ・「悩みを一緒に聞く」ことが大きな特徴である。解決しにくい困難な悩みや事柄は、上記のように専門の別機関を紹介する。 →スタッフは経験不要、匿名でもかまわない、すぐに実施に移すことができる。
みんなでこんなことができる	○人材 ・若い人～年長者まで、幅広いスタッフで対応する。 ○なんでもOK ・色々な相談を受ける（恋愛・結婚・いじめ・DV・相続・詐欺など）。 →専門性が高く、相談窓口だけで解決が困難な場合は、以下のような流れで専門の別機関を紹介する。 ※YOROZUYA相談→弁護士会、法務局、役所、法テラスなど ・YOROZUYA相談が得意な相談受付内容は、以下の事柄である。 →人生相談・恋愛相談・結婚相談など
実現のために	・相談は無料で受けたい。ただし窓口運営で最低限、交通費などは必要となる。 →場所、回線などの経費は一部行政にも負担してもらおうような支援が必要である。または町内会の支援などがあると良い。（経費負担の代わりに例えば、みかん1個などでも良い） ・相談者のプライバシー保護の課題がある。

■15グループ

タイトル	(アプリで！飲み物付！) Picking Map ～楽しみながらゴミ拾い～
プロジェクト概要	○スタンプラリーゴミ拾い（子供向け？スタンプラリーはやりたい方限定！ゴミ拾いだけでもOK） ・若者世代で企画する ・若い世代で企画運営、アプリを使ってまちを知る＋ゴミ拾い →交流会で飲み物、お弁当付 ・ゴミ拾いを楽しめるアプリ（ポケモンゴーのように写真を撮ると、その地域のことも知れるようなアプリ） ・色々な地域で行う ・ゴミ拾いの後の飲み物つき、お弁当も（缶ビール（ノンアルコール）、ジュース） ・ただのゴミ拾いで終わらないように交流会をゴミ拾いが終わった後に行う（公園・まちづくりセンターなどで） ・商店街でプロジェクトを行ったら商店街で使える割引券がもらえると良い ・自分が人のために使った時間が返ってくる、誰かに何かしてもらえるといいものではないか。 ・ゴミ拾いが終わった後に何かグッズをもらえる（バッジなど、表彰のようなもの）
みんなでこんなことができる	○情報発信 ・ツイッターで若者へ発信、広報さっぽろのツイッターあることもみんな知らないので広めたい ・広報さっぽろで高齢者の方へ ・回覧板で情報発信 ・Facebook ページを作るって学生を集めることができる ○参加する ・できることはまず自分が参加すること！ ・企画側に声かけで人を増やす ・アプリ作れる人募集中
実現のために	・市から金銭的な支援も少しあると良い ・色々な地域で実施する際には区との連携も必要 ・地域の話を教えてもらうため町内会との連携が必要 ・子どもにもたくさん参加してもらいたいので、小中学校や幼稚園と連携して取り組む